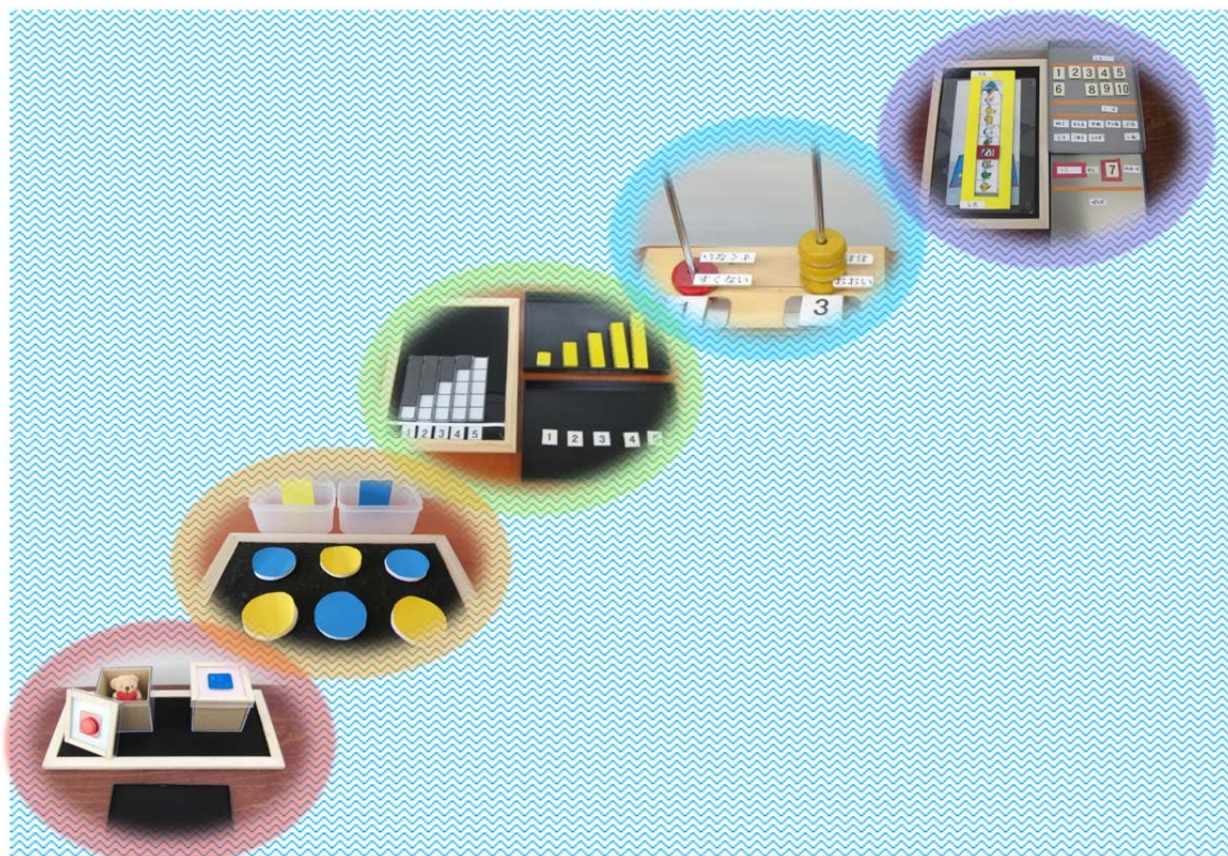


特別支援学校(知的障害)における教科指導の充実
～文部科学省著作教科書を活用した算数科～

[数と計算(数量の基礎) 小学部1～2段階]



平成29年3月

栃木県総合教育センター

ま え が き

教育の目的は、子どもの持っている力を伸ばしながら、社会において自立的に生きていく基礎を培うことにあります。そして、障害のある児童生徒が生涯にわたり自立し社会参加していけるよう、特別支援教育の充実が求められる中、本県特別支援学校（知的障害）においては、高等部卒業者の就職率が40%前後を維持するなど、各学校の取組は着実に実を結んでいるといえます。これは、日々の学校生活の中で培われた子どもたちの自信が、社会において自立的に生きていく基礎である、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた「生きる力」となって結実した結果とも思います。自信は、人が積極的にかつ豊かに生きていこうとする力の源となるものだからです。

さて、学校の日常的な取組の一つとして、各教科の中に、算数科の指導があります。日々の授業において、教師が指導を工夫することにより、児童生徒は、主体的に教材や教師との対話を重ね、「分かる」経験を積むことができます。分かることで、児童生徒には自信が育ちます。自信をもった児童生徒は、意欲的に学習に取り組み、さらに分かることが増え、落ち着いて生活が送れるようになります。また、分かったことを共有できる教師や友達がいることで、積極的に人とかかわろうとします。このように、算数科の指導において育った自信も、やがて、児童生徒が自立し、社会参加していくための原動力となっていくと考えます。

「分かる」指導を行うためには、教師が系統性を踏まえた指導を行うことが重要です。系統性を踏まえることは、様々な実態の児童生徒に対し、適切な指導目標と指導内容を設定することにつながります。そのため、特別支援学校（知的障害）の算数科については、文部科学省が教科書を著作しており、学校教育法第82条において、基本的にはその教科書を使用することが示されています。また、教科書解説には、指導の際に「指導内容段階表」などを作成することが記されております。

そこで、当センターでは、平成27～28年度の二年間にわたり、「特別支援学校(知的障害)における教科指導の充実～文部科学省著作教科書を活用した算数科(領域「数と計算」)～」の調査研究を行い、この度、小学部1～2段階における系統性を踏まえた指導について本資料にまとめました。

各学校においては、一人一人の児童生徒が充実した学びを得られるよう、そして、その指導を学年・学部を越えて引き継いでいくことができるよう、本資料を御活用いただき、算数科の指導の更なる改善・充実に努めていただければ幸いです。

最後に、本研究を進めるにあたり、多くの示唆に富む御指導をいただきました、群馬大学教育学部准教授 中村保和先生、実践を提供してくださいました研究協力委員の先生方をはじめ、富屋特別支援学校鹿沼分校の先生方に深く感謝申し上げます。

平成29年3月

栃木県総合教育センター所長

軽部幸治

目 次

1	算数科の指導の充実のために	1
2	本資料の使い方	
	(1) 使い方の手順	2
	(2) 各ページの構成及び解説	3
	①指導内容段階表	
	②指導例	
	③年間指導計画例	
3	算数・数学科の目標及び内容	4
4	領域「数と計算（数量の基礎）」の主な指導内容	5
	《特別寄稿》 教師の知識の集積に向けて 群馬大学教育学部 中村保和	6
	《調査研究を終えて》 子どもの姿から学んだこと 県立富屋特別支援学校鹿沼分校 川中子靖代… 福田 有宏	7
5	小学部1段階（☆）	
	(1) 指導内容段階表	8
	(2) 指導例	10
	(3) 年間指導計画例	
	①1学年	26
	②2学年	28
6	小学部2段階（☆☆）	
	(1) 指導内容段階表	30
	(2) 指導例	32
	(3) 年間指導計画例	
	①3学年	56
	②4学年	58
7	各教材について	
	(1) 材料	60
	(2) ダウンロード（DL）素材	60
	(3) 作り方	61
	参考文献	79

1 算数科の指導の充実のために

○ 系統性を踏まえた指導

・ 指導の系統の全体における、子どもの現在地を把握する。

・ 系統性を踏まえた指導とは、指導の系統の全体における、子どもの現在地を把握して行う指導です。全体における子どもの現在地を把握することで、子どもの実態に即した指導目標・指導内容を設定しやすくなります。そのため、教科書及び教科書解説により、系統性を確認することが大切です。

○ 子どもが主体的に学習できる指導

・ 教師は、子どもの思いや考えを受け止めながらかかわる。

(温かい人間関係)

・ 教材については、子どもが操作を通して正解を実感できるように配慮する。

(分かりやすさ)

・ 教師は、子どもの思いや考えを受け止めながらかわります。学習を進める際は、「○○してみますか?」と、子どもの意思を確認しながら行います。課題ができたときは、共に喜び合います。課題ができないときは、子どもの考えを受け止め、指導の手立てを改善します。教師が思いや考えを受け止めることで、子どもは教師と一緒に学びたいという意欲を高め、主体的に学習できます。

・ 教材については、子どもが操作することができ、視覚や触覚等を使って「これでいいんだ」と正解を実感できるように配慮します。教師が正解を伝えるのではなく、子ども自身が正解を実感できることによって、主体的に学習できます。

○ 教科別の指導を核とした指導

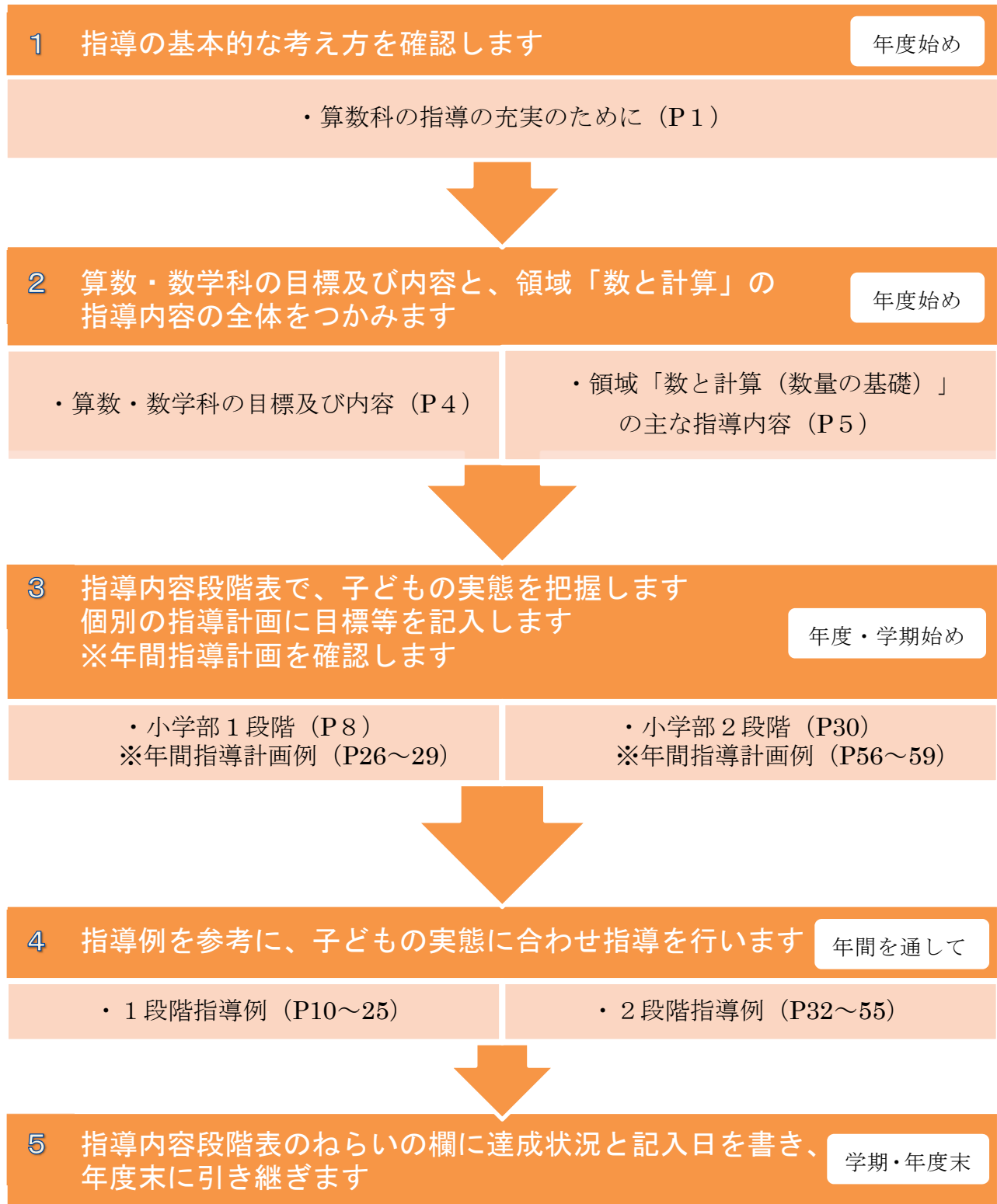
・ 教科別の指導で学んだことを、日常生活等で生かせる場面を意図的につくる。

・ 子どもが教科別の指導で学んだことを日常生活等で生かせる場面を、教師が意図的につくることで、指導の効果が高まります。子どもにとって、日常生活は様々な刺激が多く、どこに注目し、何を学べばよいのかが分かりにくい場合があります。そこで、教科別の指導で、教師が実態に合った学びやすい状況を設定し、そこで子どもが学んだことを、日常生活等で生かせるようにするという視点が大切です。

2 本資料の使い方



(1) 使い方の手順

本資料の使い方の手順です。指導の際には、この流れを参考とし、各学校の実情に応じて使用してください。



(2) 各ページの構成及び解説

①指導内容段階表

(1) 1段階 指導内容段階表			
学年・組()		児童生徒氏名()	指導者()
番号	ねらい (口達成状況、記入日)	指導内容・教材例 (掲載ページ)	教科書の題材 (教科書P)
1	□特定のものに注目し、つかむ (/ /) □特定のものをつかんで、特定の場所に入れる (/ /)	◎ピンポンだまを いれよう [P10] 	○じゅんぴはいいかな [P74] ○きょうにゆうがない人はだれ? [P76~77]
2	□形の違いや方向を意識して、具体物を分ける □様さし (/ /) □ゴルフボールとリング (/ /) □ゴルフボールとコイン (/ /)	◎ボールとコインを わけよう [P12] 	※教科書の題材なし
3	□目に前で隠されたものを探す	◎たからさがし	○どこにかくれているか

様式は当センターHPよりダウンロードできる

子ども一人一人に作成

指導の順序

ねらい、達成状況、記入日

※例 □：現在取り組んでいる

■：支援があればできる

■：一人でできる (H29/5/30)

指導内容、教材例、指導例の掲載ページ

教科書の題材名、掲載ページ

②指導例

1段階-1 ピンポンだまを いれよう P61~62

指導計画 目安時数(全4h)

ねらい	学習活動
・特定のものに注目し、つかむ。 ・特定のものをつかんで、特定の場所に入れる。	① ◎好きなものに手を伸ばしてつかむ。(1h)
	② ◎ピンポン玉をつかんで、教師に手渡す。(1h)
	③ ◎ピンポン玉をつかんで、缶に入れる。(1h)
	④ ◎ピンポン玉をつかんで、穴に入れる。(1h)

教科書☆P74、76~77

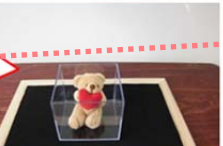
生活 ○給食で、好きなデザートに手を伸ばしてつかむ。

指導例

①

教師が透明な箱の中に、子どもの好きなものを入れ、「どうぞ」と提示する。
子どもは、手を伸ばし、つかむ。

教師は、ものを指さし、子どもが特定のものに注目できるよう促す。
箱の空いている位置を変えるなどすると、ものへ手を伸ばす際の動きも学習



段階と番号、指導内容、教材の作り方の掲載ページ

目安となる指導時数 ※1単位時間(45分)は、実状に応じて15分×3回にするなど、分けてもよい

ねらい、教科書掲載ページ

教科別の時間における学習活動、時数

※◎は個別、◎は小集団の形態で行う活動

日常生活等での指導場面

指導場面の子どもや教師の動き

配慮事項等

③年間指導計画例

(3)年間指導計画例			
①1段階 1学年			
月	月(目安時数)	題材(時数102h)【教科書掲載ページ】 各教科等を合わせた指導(68h)	反省・改善点
4	① 2 ② 4	① ピンポンだまを いれよう (4h) ◎特定のものをつかみ、特定の場所に入れる ◎ピンポン玉をつかんで、缶に入れる ◎ピンポン玉をつかんで、穴に入れる	※学校生活に慣れ、教師との信頼関係を形成することを重視。 ◎どのものが好き? ◎大小に関心をもつ
5	③ 3 ④ 6	② ボールとコインを わけよう (6h) ◎形の違いや方向を意識して、具体物を分ける	じぶんのマークは どれかな [p.4] ◎特定のものに注目する
6	⑤ 4 ⑥ 8	◎いろいろなかたちをさがしてみよう [p.34~37] ◎いろいろな形に気付く	
7			

様式は当センターHPよりダウンロードできる

学級、習熟度別の学習グループ名等

学期や月の目安時数 ※◎は教科別の指導、◎は各教科等を合わせた指導

指導内容、めあて等 ※色と模様は領域の違いを示す

年計の反省や改善点 ※学期末等に記入

3 算数・数学科の目標及び内容

小学部から高等部までの、算数・数学科の指導目標・指導内容の全体を把握します。

学部・ 目標・ 段階 内容	小学部			中学部	高等部	
	1段階	2段階	3段階		1段階	2段階
【目標】	具体的な操作などの活動を通して、数量や図形などに関する初歩的なことを理解し、それらを扱う能力と態度を育てる。			日常生活に必要な数量や図形などに関する初歩的な事柄についての理解を深め、それらを扱う能力と態度を育てる。	生活に必要な数量や図形などに関する理解を深め、それらを活用する能力と態度を育てる。	
【内容】 1 数と計算 (数量の基礎)	具体物があることが分かり、見分けたり、分類したりする。 (数量の基礎)	身近にある具体物を数える。	初歩的な数の概念を理解し、簡単な計算をする。	日常生活における初歩的な数量の処理や計算をする。	日常生活に必要な数量の処理や計算をする。	生活に必要な数量の処理や計算をする。
2 量と測定	身近にあるものの大きさや多少などに関心をもつ。	身近にあるものの長さやかさなどを比較する。	身近にあるものの重さや広さなどが分かり、比較する。	長さ・重さなどの単位が分かり、測定する。	長さ・重さなどの単位の関係が分かり、測定する。	長さ・重さ・量などの測定方法を理解し、活用する。
3 図形・数量関係	身近にあるものの形の違いに気付く。	基本的な図形や簡単な図表に関心をもつ。	基本的な図形が分かり、その図形を描いたり、簡単な図表を作ったりする。	図形の特徴や図表の内容を理解し、作成する。	図形を正しく作図したり、表やグラフを工夫して作ったりする。	様々な図形、表やグラフを理解し、工夫して使う。
4 実務		一日の時の移り変わりに気付く。	時計や暦に関心をもつ。	金銭や時計・暦などの使い方に慣れる。	金銭や時計・暦などの正しい使い方が分かる。	生活に必要な金銭や時計・暦などを工夫して使う。

「特別支援学校教育課程編成の手引 [小学部・中学部]」栃木県教育委員会 平成23年より

4 領域「数と計算（数量の基礎）」の主な指導内容

小学部から高等部までの、領域「数と計算（数量の基礎）」の全体を把握します。

学部・段階 内容	小学部			中学部	高等部		
	1段階 (☆)	2段階 (☆☆)	3段階 (☆☆☆)	(☆☆☆☆)	1段階	2段階	
(数量の基礎)	○注目	○特定のものに 着目して、 つかんだり、指 差したりする					
	○分類①	○同じもの、 似ているもの を選んだり集 めたりする ○対応させて ものを置いた り、分割した 絵を組み合わ せたりする					
数と計算	○分類②		○身近なもの を、形、色、 大きさ、用途 などで分類す る				
	○一対一対 応		○一対一対応 により、数の 多少が分かる				
	○数唱 計数 記数 大小比較 順序数		○10までの数 を扱う	○50程度ま での数を扱う	○3位数程度 までの数を扱 う	○1万程度ま での数を扱う	○百万程度ま での数を扱う
	○合成 ・分解		○5までの数 を扱う	○10までの数 を扱う			
	○加法			○20までの、 2位数+1位数 (繰上りなし)	○3位数まで (繰上りあり)	○4位数程度 (繰上りあり)	○百万程度の数
	○減法			○10以下-1位数	○3位数まで (繰下りなし)	○4位数程度 (繰下りあり)	○ "
	○乗法			○2つつつ、5 つつつ数える	○かけ算九九 (2、3、5の段 を中心に)	○かけ算九九 (2、3、5の段 以外)	○3位数程度
	○除法			○2等分、4等分	○2位数÷1位 数 (あまりなし)	○2位数÷1位 数 (あまりあり)	○3位数÷2位 数程度 (あまりあり)
○計算機 等				○日常生活(調 理、買い物等) に必要な加法、 減法	○日常生活(調 理、買い物等) に必要な乗法、 除法	○消費税や割 引の計算 ・小数 (第2位程度) ・百分率 ・分数 (3分の2程度) ○概数	

参考資料 「さんすう☆☆さんすう☆☆さんすう☆☆教科書解説」文部科学省 平成23年
「数学☆☆☆☆教科書解説」文部科学省 平成24年
「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省 平成20年

《特別寄稿》 教師の知識の集積に向けて

群馬大学教育学部 中村 保和

今回、「特別支援学校（知的障害）における教科指導の充実」発行に際して、作成の一旦に携わった者として、この冊子の意義と出来上がりの経緯についてひとこと触れさせて頂くことにいたします。

教師が、椅子に座ることを促してもすぐに立って席を離れてしまう、教材を提示しても触れようともしない子どもと、モノを数え、さらに数えたモノを記号で確定していくことは難しいことです。知的な障害のある子どもは、学校生活のなかで起こすべき様々な行動に渋滞をみせるのみならず、数や記号を扱った学習を行う際にも困難を示すことがあります。こうした子どもたちに働きかけ、数の学習を行おうとする教師も行き詰まってしまうことがあります。

しかしながら、そうした行き詰まりがあっても、なお、何とかして子どもたちと係わりを持ち続け、かれらと学習を展開しようとする意志と工夫があって、はじめて「教師の知識」というものが生まれてくるのだと思います。本冊子は、「発達尺度」のようなものを作って、子どもの進歩の度合いを評価して位置づけようということではなく、栃木県の先生方が子どもと様々に行っている数の学習のなかで得られた経験から、実際に役立つ知識を他の人々と分かち合おうという思いのもとに作られた「教師の知識の収録」です。

子どもたちは一人一人みな違った存在であり、その時その時、みな違った振る舞いをみせます。実際、子どもと向き合う教師は大まかな学習の目安を持ちながらも、子どもの実態や学習の進み具合により、ある段階の内容を同時的に学習したり後先になったりします。また、場合によっては、ある段階の学習を省略して先に進むこともあれば、反対に丹念に時間をかけて行うこともあります。このような行きつ戻りつが子どもとの学習の現実ではありますが、その現実をどのような形で書き記すかについては、編著者である総合教育センターの先生方が苦労して何度も検討を重ねました。それはこの冊子が、子どもたちと学習を展開しようとする多くの学校の先生方にとって、子どもとの学習の歩みを俯瞰したり行き先を見定めたりする際の支えとなるために、子どもとの間に起きた学びの出来事を実践から得られた知識としてどのように書き記せばよいのかという問題意識をもって作成されたからです。その結果、既存の論文や実践報告書、図書などの文献を丹念に調べ参考としながら、学習の大まかな目安としての「段階表」を作り、学習の進め方（指導例）や教材例を示すという形式がよいと考えました。ただし、重ねて申し上げますが、この「段階表」は、子どもの学習状況を尺度化しようとするものではなく、また、教師の仕事を工程表のようにマニュアル化しようとするものでもありません。現実に生じている子どもとの行きつ戻りつ、紆余曲折の学習経過から、「こういう子どもの姿はしっかりと捉えてほしい」、「こうした状況作りの工夫は忘れないでほしい」といった学習指導のエッセンスを取り出して、それを学校の教師が経験する学習指導の現実に添った形で読み手に伝えたいという願いを込めて作成しています。

これを手に取った先生方が、ここに記されたエッセンスを踏まえて、子どもとどのように数の学習に踏み出していかは、先生方一人一人のこれまで培われてきた教師としての知識や力量にかかっているでしょう。この冊子を学習指導の支えとしながら、栃木県の先生方と子どもたちの学習指導の新たな物語が創り出され、新しい知識の集積へと発展していくことをお祈りいたします。

《調査研究を終えて》子どもの姿から学んだこと

県立富屋特別支援学校鹿沼分校 川中子 靖代

本研究を始めた昨年度4月、4学年の7名の児童は、新しい担任や日課などの環境の変化に戸惑い、算数の授業では半数の児童が着席できずにいました。研究に取り組むにあたって、何から指導を始めればよいか、教師も戸惑いながらのスタートでした。

まずは、指導内容段階表を使用して対象児の実態把握を行い、児童が学びやすい教材の作成に取り組みました。教材は、児童が必ず正しい解答が出せることや、教師が正解か不正解かを伝えるのではなく、児童自身が正解を実感できる工夫を心掛けました。また、教師は、児童と一緒に教材に向き合い、「できた」「分かった」喜びを共有することを大切にしました。

2年間の実践は、児童が今できることから学習を始め、意思を確認しながら、教材から正解の手がかりを減らしていくことで、自然と学習が進んでいきました。児童は、大きな声で算数ブロックを数えるなど、「分かる」ことを楽しみ、自信をもって、意欲的に学習するようになりました。さらに、授業が、教師と児童がコミュニケーションを深める貴重な時間にもなっていました。同様のかかわりを学級内の他の児童にも実践したところ、いつしか全員が算数の授業に落ち着いて取り組むようになりました。児童の中には次の課題を待ちきれず、自分で教材を用意するなど、算数を毎日楽しみにする姿も見られてきました。このような意欲的な姿は、算数の授業に留まらず、生活全般においても感じられるようになりました。例えば、学校で自ら言葉を発することが少なかった児童は、算数の学習の中で言葉が増え、徐々に他の場面でも発語が多くなってきました。これは授業の中で育まれた自信や、担任との信頼関係が基盤となり、生活の中へ広がったものだと思います。

このような児童の変容から、教科指導において、指導の系統性を踏まえつつ、児童と丁寧にかかわることの大切さと楽しさを学ぶことができました。

県立富屋特別支援学校鹿沼分校 福田 有宏

2年間の調査研究のうち、私は2年目から本研究の調査研究協力委員を担当することになり、1年間の実践を行ってきました。

そこで実感したことは、前担任からの「引継ぎの大切さ」です。まず、前担任が使っていた指導内容段階表で、児童がどこまで学習を進めてきたのかを把握し、前学年の復習から始めました。その際に有効だったのが、児童がこれまで使っていた教材も引き継いだことでした。

年度当初、担任が替わったことで、対象児には、新しい環境に対する戸惑いや不安があったと思います。しかし、前年度の国語・算数の時間に「分かる経験」を積み重ね、自信をもって取り組んできた教材を継続して使用したことで、児童が安心して学習に取り組むことができました。さらに、前担任と共有した「できた」という気持ちを、新しい担任とも共有できたことで、児童はより学習内容の理解を深め自信をもつことができました。そして、それが新しい担任と児童との信頼関係の形成や、その後の学習意欲の向上につながったのだと思います。

このように、系統性を踏まえた指導を引き継ぐことにより、児童の変容を感じることもできた1年間でした。

5 小学部 1 段階 (☆)

(1) 1段階 指導内容段階表

学年・組() 児童生徒氏名() 指導者()


番号	ねらい (□達成状況、記入日)	指導内容・教材例 〔掲載ページ〕	教科書の題材 〔教科書P〕
1	<input type="checkbox"/> 特定のものに注目し、つかむ (/ /) <input type="checkbox"/> 特定のものをつかんで、特定の場所に入れる (/ /)	◎ピンポンだまを いれよう 〔P10〕 	<input type="checkbox"/> じゅんびはいいかな 〔P74〕 <input type="checkbox"/> ぎゅうにゆうがないひとはだれ?〔P76~77〕
2	<input type="checkbox"/> 形の違いや方向を意識して、具体物を分ける <input type="checkbox"/> 棒さし (/ /) <input type="checkbox"/> ゴルフボールとリング (/ /) <input type="checkbox"/> ゴルフボールとコイン (/ /)	◎ボールとコインを わけよう 〔P12〕 	※教科書の題材なし
3	<input type="checkbox"/> 目の前で隠されたものを探す (/ /) <input type="checkbox"/> 見えていたものが隠れても、出てくることを予測して見ようとする (/ /)	◎たからさがし 〔P14〕 	<input type="checkbox"/> どこにかくれているかな?〔P8~10〕 <input type="checkbox"/> どこからでてくるかな〔P14~15〕
4	<input type="checkbox"/> 同じものを選ぶ <input type="checkbox"/> 形と形 (/ /) <input type="checkbox"/> 大小 (/ /) <input type="checkbox"/> 色と色 (/ /) <input type="checkbox"/> 具体物と具体物 (/ /) <input type="checkbox"/> 絵カードと絵カード (/ /)	◎おなじものは どれかな〈1〉 〔P16〕 	<input type="checkbox"/> おなじいろでわけよう 〔P20~23〕 <input type="checkbox"/> おなじカードはどれかな?等〔P44~48〕 <input type="checkbox"/> おなじものはどれかな?等〔P70、72〕

5	<input type="checkbox"/> 具体物と照らして、同じ絵カードを選ぶ (/ /)	◎おなじものは どれかな 〈2〉 〔P18〕 	○おなじものをさがそう ①、② 〔P71、73〕
6	<input type="checkbox"/> 関連の深い一対のものの組み合わせが分かる (/ /)	◎そろえてみよう 〔P19〕 	○そろえてみよう 〔P47、49〕
7	<input type="checkbox"/> 具体物で仲間を集める <input type="checkbox"/> 同じもの (/ /) <input type="checkbox"/> 共通の特徴があるもの (/ /)	◎おなじものを あつめよう 〔P20〕 	○おなじものところにかたづけよう 〔P79〕 ○どこにかたづける？ 〔P68～69〕
8	<input type="checkbox"/> 分割した絵カードを合わせ、絵を完成する <input type="checkbox"/> 2分割 (下絵あり／なし) (/ /) <input type="checkbox"/> 4分割 (下絵あり／なし) (/ /)	◎あわせてみよう 〔P22〕 	○あわせてみよう①、② 〔P54～59〕
9	<input type="checkbox"/> 関連の深い絵カードを集める <input type="checkbox"/> 食べ物 (果物) (/ /) <input type="checkbox"/> 動物 (/ /)	◎なかまを あつめよう 〔P24〕 	○なかまをあつめよう①、② 〔P50～53〕
/	<input type="checkbox"/> 1段階のまとめ (/ /)	◎これまで使用した教材に取り組み、学習を振り返る	○いただきます 〔P78〕
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・□は達成状況を記入 (▣：現在取り組んでいる ▣：支援があればできる ■：一人で行える) ・(/ /) は記入日 例：(H29/5/30) ・教科書「マークにあわせてならべよう〔P24～29〕」、「みほんどおりにくばろう〔P75〕」は、生活場面を利用して指導する。 		

(2) 指導例

1 段階 — 1	ピンポンだまを いれよう	P61~62
----------	--------------	--------

指導計画 目安時数 (全4h)

ねらい	学習活動		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定のものに注目し、つかむ。 ・ 特定のものをつかんで、特定の場所に入れる。 	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="background-color: #f4a460; color: white; text-align: center; vertical-align: middle;">教科別</td> <td> ① ㊦好きなものに手を伸ばしてつかむ。(1h) ② ㊦ピンポン玉をつかんで、教師に手渡す。(1h) ③ ㊦ピンポン玉をつかんで、缶に入れる。(1h) ④ ㊦ピンポン玉をつかんで、穴に入れる。(1h) </td> </tr> </table>	教科別	① ㊦好きなものに手を伸ばしてつかむ。(1h) ② ㊦ピンポン玉をつかんで、教師に手渡す。(1h) ③ ㊦ピンポン玉をつかんで、缶に入れる。(1h) ④ ㊦ピンポン玉をつかんで、穴に入れる。(1h)
教科別	① ㊦好きなものに手を伸ばしてつかむ。(1h) ② ㊦ピンポン玉をつかんで、教師に手渡す。(1h) ③ ㊦ピンポン玉をつかんで、缶に入れる。(1h) ④ ㊦ピンポン玉をつかんで、穴に入れる。(1h)		
<p>教科書☆P74、76~77</p> 	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="background-color: #f4a460; color: white; text-align: center; vertical-align: middle;">生活</td> <td>○給食で、好きなデザートに手を伸ばしつかむ。</td> </tr> </table>	生活	○給食で、好きなデザートに手を伸ばしつかむ。
生活	○給食で、好きなデザートに手を伸ばしつかむ。		

指導例

①

- ・ 教師が透明な箱の中に、子どもの好きなものを入れ、「どうぞ」と提示する。
- ・ 子どもは、手を伸ばし、つかむ。



特定のものに注目し、つかむ

- ・ 教師は、ものを指さし、子どもが特定のものに注目できるよう促す。
- ・ 箱の空いている位置を変えるなどすると、ものへ手を伸ばす際の動きも学習できる。

- ・ つかめるようになったら、教師が箱の空いている場所を左右や奥に変化させたり、透明なふたをつけたりし、取ることを促す。



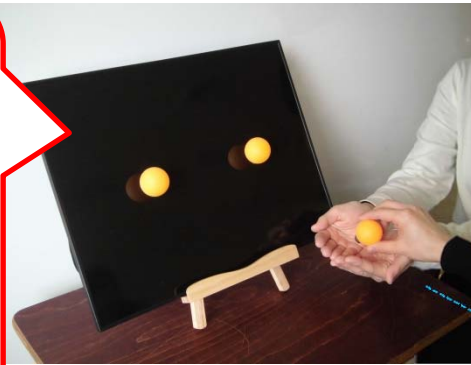
右が空いている



ふた付き

②

- ・教師がピンポン玉を指さし、「取って」と言う。
- ・子どもは、玉をつかむ。
- ・教師が「ちょうだい」と手を出し、玉を受け取る。



ピンポン玉をつかんで、教師へ

- ・はじめは、子どもが玉をつかむだけでよい。
- ・つかんだ玉を、子どもが離したら教師がキャッチするなどし、徐々に、教師の手の平に玉を手渡すことを促す。

③

- ・子どもが、ピンポン玉をつかみ、教師が持つ口の広い浅い缶に入れる。



ピンポン玉をつかんで、広い缶へ

- ・缶を介すことで、②より難しくなる。
- ・缶は入れた音が大きく、よく分かる。

- ・缶ができれば、口の狭い透明な容器に替えて行う。



ピンポン玉をつかんで、狭い容器へ

- ・口の広い缶より、狭い容器に入れるのは難しくなる。

④

- ・教師が「入れるよ」と、容器の穴にピンポン玉を入れ見本を示す。
- ・子どもが、ピンポン玉を容器の穴に入れる。



特定のものを、特定の場所に入れる

- ・教師が容器を持たず、入れる穴も小さくなるため、③よりも難しくなる。

指導計画 目安時数 (全6h)

ねらい	学習活動		
<ul style="list-style-type: none"> ・形の違いや方向を意識して、具体物を分ける。 	教科別	① ④ 棒を穴にさす。 (2h)	
教科書掲載なし		生活	○いろいろな玩具で物を「入れる」ことを楽しむ。

指導例

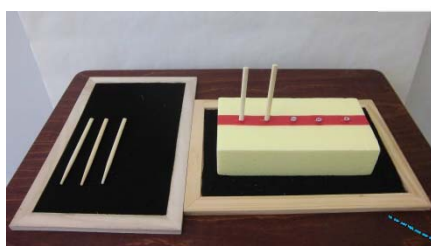
①

- ・教師が穴を指さし、「棒をさしてね」と声をかける。
- ・子どもが、棒を、穴にさす。



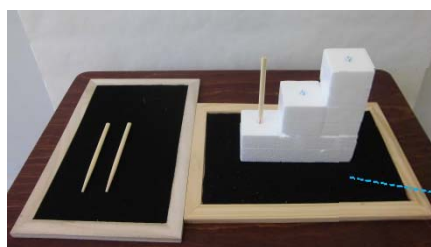
3本の棒さし (物の形や方向を意識する)

- ・1本から徐々に増やす。
- ・ピンポン玉は、どの方向でも穴に入るが、棒は縦方向にしないと入らないので難しくなる。



5本の棒さし

- ・なめらかに目を横に動かせるよう、提示枠を左に置き、穴を順番に指で触れてから行うとよい。
- ・さす穴以外を、教師が手で隠して始めてもよい。
- ・穴も小さく、難しくなる。

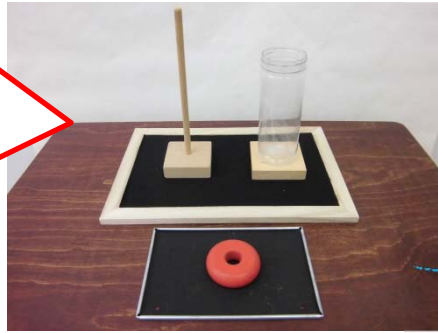


階段状の棒さし

- ・階段状になると、左から順番にさすことが意識されやすい。

②

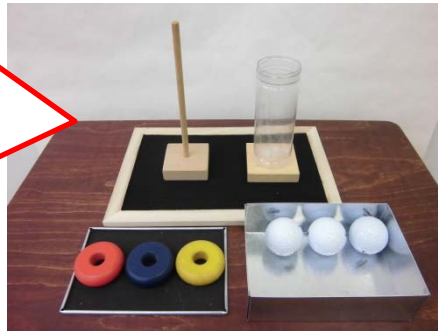
- ・教師がリングやボールを一つずつ提示し、「こっちだよ」と示す。
- ・子どもは、リングを棒にさし、ゴルフボールを容器に入れる。



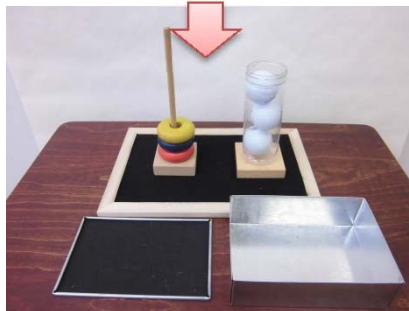
リングとボールを分ける
(一つずつ提示)

- ・「リングはさす、ボールは入れる」という形のもつ特徴で分ける。
 - ・リングは筒に入らない大きさにする。
 - ・ボールの筒は透明にし、入れたことが分かるようにする。
 - ・ボールやリングの形を、子どもが口や頬にあてて確かめることも見守る。
- ※ボールの大きさは、誤飲を防ぐよう、注意する。

- ・教師が「リングはこっち、ボールはこっちだよ」と見本を示す。
- ・子どもは、リングを棒にさし、ゴルフボールを容器に入れる。



(一度に提示)



分けたところ

③


- ・教師が、「コインはこっち、ボールはこっちだよ」と見本を示す。
- ・子どもが、コインとゴルフボールを、それぞれの穴に入れる。



コインとボールを分ける

- ・コインはボールの穴にも入るので、②よりも難しい。
- ・ボールの穴を塞いで、コインのみを入れることから始めてもよい。
- ・コインの穴は、縦よりも横の方が、手の動きが容易である。

指導計画 目安時数 (全6h)

ねらい	学習活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・目の前で隠されたものを探す。 ・見えていたものが隠れても、出てくることを予測して見ようとする。 	教科別	① ④ 布に隠されたものを取る。 (2h)
教科書☆P8～10、14～15 		② ④ 不透明な箱に隠されたものを取る。 (2h)
		③ ④ 玉転がしの玩具で、玉を待って取る。 (2h)
生活		<ul style="list-style-type: none"> ○砂場で、砂の中に隠された好きなもの(車)を探す。 ○いつも好きなものをしまうロッカーに、カーテンをつけ、カーテンを開けてものを取る。 ○トンネルと車の玩具を使ってやりとりをする。

指導例

①

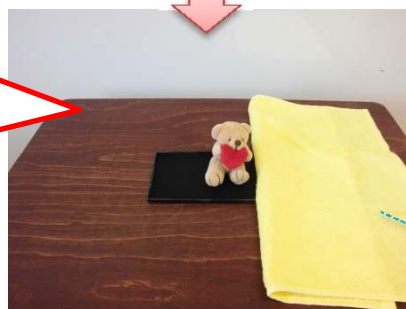
- ・教師が子どもの目の前で、好きなものを布で隠し、「なくなった!」と言ってから、布を取り、「あったね」と確認する。



好きなものを布で隠す

- ・はじめは、半分隠れた状態から行くと分かりやすい。
- ・子どもが探すことができるよう、教師がモデルを示す。

- ・徐々に、子どもが、布をめくり、好きなものを取れるように促す。

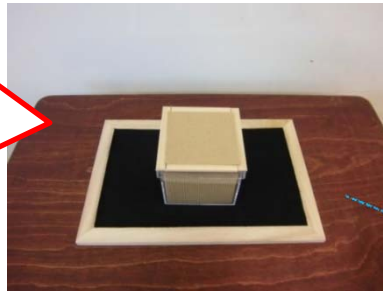


目の前で隠されたものを探す

- ・好きなものがあつたことを喜び合い、くまを動かすなど、一緒に楽しむ時間をつくる。

②

- ・教師が、「くまさん、おうちに入るよ」などと言い、子どもの好きなものを目の前で不透明な箱に入れる。



箱に好きなものを入れる

- ・はじめに、子どもが箱を開けて取る学習を取り入れる。
- ・その後、つい立てで隠して行うとよい。

- ・「まってね」と言い、0～5秒ほど、つい立てで箱を隠し、つい立を取って子どもに提示する。



つい立てで数秒間隠す

- ・つい立てで隠す際は、短い時間から始め、徐々に長くする。

- ・教師が「くまさん、どこ？」と言い、子どもが箱を開けて、好きなものを取る。

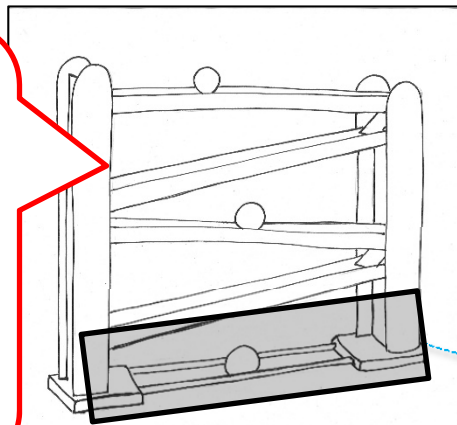


開けると好きなものがある

- ・好きなものがあつたことを喜び合い、一緒に楽しむ。

③

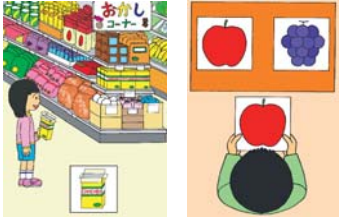
- ・玉ころがしの玩具で遊べるようになったら、一番下の段を半透明の板で隠す。
- ・教師が「玉が出てくるかな」と言い、板をめくって玉を取る。
- ・徐々に、子どもが板をめくるよう促す。



半透明の板をめくって、玉を取る
(玉が隠れても、出てくることを予測する)

- ・半透明の板でできたら、色画用紙など不透明なもので行う。

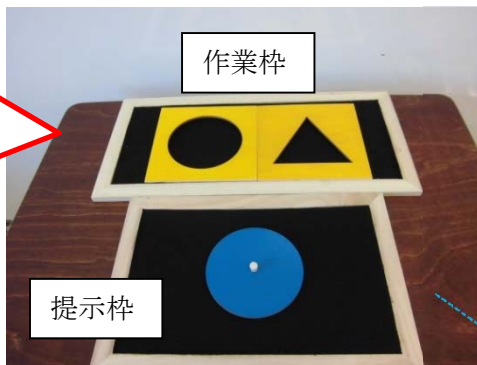
指導計画 目安時数 (全16h)

ねらい	学習活動	
<p>・ 同じものを選ぶ。</p>	教科別	① ④ 形と形の見本合わせをする。 (3h)
<p>教科書☆P20～23、44～45、46～48、70、72</p>		② ④ 大小の見本合わせをする。 (3h)
		③ ④ 色と色の見本合わせをする。 (3h)
		④ ④ 具体物と具体物の見本合わせをする。 (3h)
		⑤ ④ 絵カードと絵カードの見本合わせをする。(4h)
	生活	○体育で、赤と青のカラーボールを、それぞれのかごに分ける。

指導例

①

- ・ 教師が提示枠に円の板を置き、「まるはどっち？」と言う。
- ・ 子どもは、円をはめる。



形の見本合わせ (同じ形を選ぶ)

- ・ 穴のふちを指でなぞることを促すのもよい。
- ・ 子どもが、板を穴に押し当て、確かめることや、自分の頬にあてて触覚で形を確かめることも見守る。
- ・ 形の名前を覚えることがねらいではない。

②

- ・ 教師が提示枠に大小の板を置き、「大きいのはどっち？」と言う。
- ・ 子どもは、大きい円をはめる。

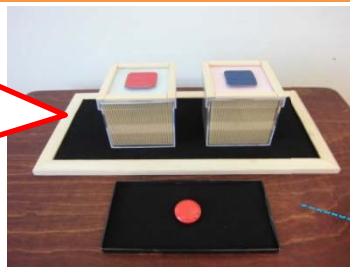


大小の見本合わせ (同じ大きさを選ぶ)

- ・ 円の型はめは、どの方向でも入るので、大小だけに注目しやすい。
- ・ 大きい円から行くと、小さい穴には入らないので、分かりやすい。

③

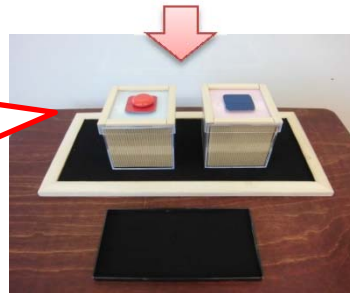
- ・教師が、赤い磁石を提示枠に置き、「同じ色はどっち」と聞く。



- ・他の色（黄、緑）などを扱ってもよい。
- ・色の名前を覚えることがねらいではない。

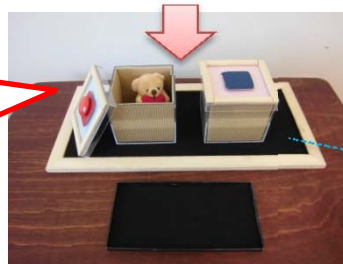
色の見本合わせ（同じ色を選ぶ）

- ・子どもは、赤い印のある箱に赤い磁石をのせる。



赤い磁石を赤の箱の上へ

- ・子どもが箱を開けて、正解の印を確かめる。

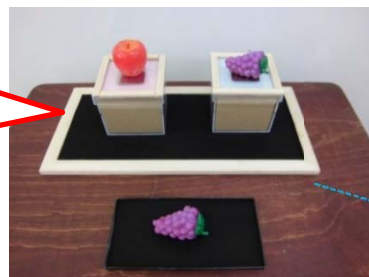


箱を開けて正解を確かめる

- ・正解が自分で分かるよう、箱の中に、正解の印（子どもが好きなもの等）を入れておく。

④

- ・③と同様に、具体物と具体物で見本合わせをする。

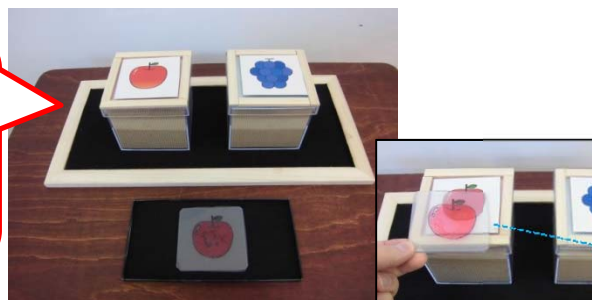


具体物の見本合わせ（同じものを選ぶ）

- ・具体物は、子どもの好きなものでよい。
- ・ものの名前を覚えることがねらいではない。

⑤


- ・③と同様に、絵カードと絵カードで見本合わせをする。



絵カードの見本合わせ（同じ絵を選ぶ）

- ・絵カードを透明にすると正解の絵とピッタリと重なり、分かりやすい。
- ・できたら、通常の絵カードにする。

指導計画 目安時数 (全4h)

ねらい	学習活動	
<p>・具体物と照らして、同じ絵カードを選ぶ。</p> <p>教科書☆P71、73</p> 	<p>教科 科 別</p>	<p>① ㊦ 具体物と絵カードの見本合わせをする。(4h)</p> <p>生活</p> <p>○数枚の絵カード(写真カード)から、自分の遊びたい玩具を選ぶ。</p>

指導例

①

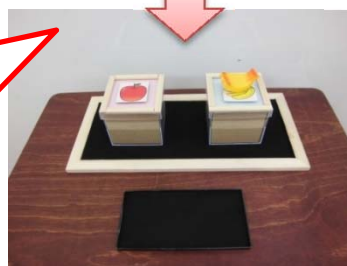
・教師が、「バナナはどっち？」と声をかける。



具体物と絵カードの見本合わせ

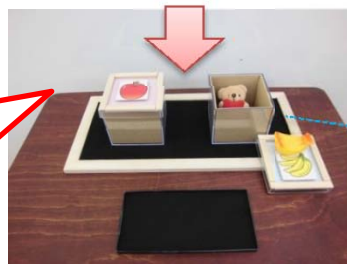
- ・具体物と、その具体物を表した絵カードが、「同じ」だと考えられることが大切。
- ・具体物は、子どもの好きなものでよい。
- ・絵カードが難しい場合、写真カードでもよい。
- ・名前を覚えることがねらいではない。

・子どもは、バナナの模型を、バナナの絵カードのある箱の上に乗せる。



バナナをバナナの絵カードへ

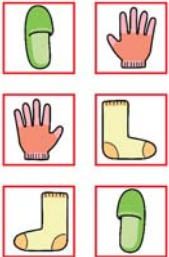
・子どもが、箱を開けて、正解を確かめる。



箱を開けて正解を確かめる

- ・正解が自分で分かるように、箱の中に正解の印(子どもが好きなもの等)を入れておく。

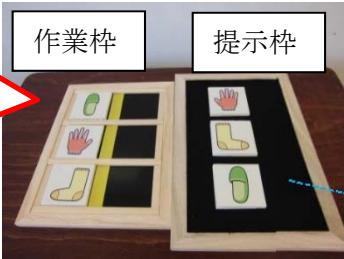
指導計画 目安時数 (全 2 h)

ねらい	学習活動	
<p>・関連の深い一対のものの組み合わせが分かる。</p> <p>教科書☆P47、49</p> 	<p>教科 別</p>	<p>① ④ 対になる絵カードを組み合わせる。 (2h)</p>
	<p>生 活</p>	<p>○玄関で、いろいろな靴が対になることに気づき、揃える。 ○給食で、箸を揃える。</p>

指導例

①

・教師が作業枠に片方のカードを入れて出す。
・「スリッパだね。もう片方はどこ？」と言う。

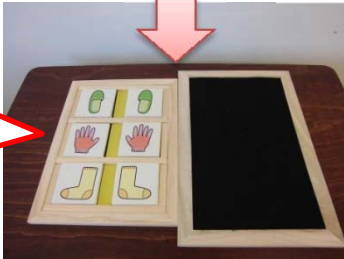


作業枠 提示枠

一対のものを揃える


・一対のものは、互いに形が少し違うけれど、「一緒」と分かることが大切。
・手袋、スリッパなどの名称を覚えることがねらいではなく、揃えられればよい。

・子どもは、対になる絵カードを選んで、組み合わせる。



揃えたところ



・子どもがカードを裏返して、絵を合わせ、正解を確かめる。



カードを裏返して、正解を確かめる

・カードの裏には、合わせると完成する絵が描いてある。

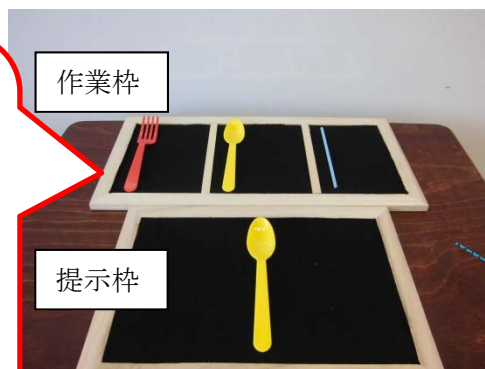
指導計画 目安時数 (全 3 h)

ねらい	学習活動	
・ 具体物で仲間を集める。	教科別	① ④ 同じ具体物で仲間集めをする。 (1 h)
教科書☆ P 68～69		② ④ 共通の特徴のある具体物で仲間集めをする。(1 h)
		③ ⑤ 集団で仲間集めゲームをする。 (1 h)
	生活	○給食で、食器を「お皿」「茶碗」などと分けて片付ける。 ○体育で、用具を片付ける場所を決め、仲間集めをする。

指導例

①

- ・ 教師が、作業枠に、フォーク、スプーン、ストローの見本を置く。
- ・ 提示枠にスプーンを置き、「同じスプーンのところに置いて」と言う。
- ・ 子どもは見本と同じところに置く。



同じ具体物による仲間集め (一つずつ提示)

・ 集める具体物は、2種から始め、できたら3種にする。また、具体物は、子どもの生活や興味・関心に合わせて選んでよい。

- ・ 集めるものを一つずつ提示してできるようになったら、一度に提示して行う。



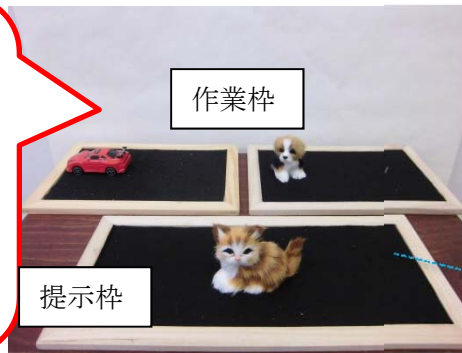
具体物を一度に提示



集めたところ

②

- ・①と同様に、教師が「ねこの仲間はどっち？」など聞き、一つずつ提示する。
- ・子どもは見本と共通の特徴を見つけ、集める。



共通の特徴で仲間集め（一つずつ提示）

- ・具体物は、子どもの好きなものでよい。
- ・車は堅い、動物はふわふわなど、感触の手がかりがあるとよい。
- ・車を走らせるなど、動作化するとよい。
- ・「車とトラックは仲間だね」など、声をかける。
- ・名前を覚えることがねらいではない。

- ・一つずつ提示してできるようになったら、一度に提示して行う。



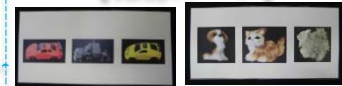
具体物を一度に提示

- ・集め終わったら、子どもが作業枠の下から確認カードを出し、正解を確認する。



集めて正解を確認する

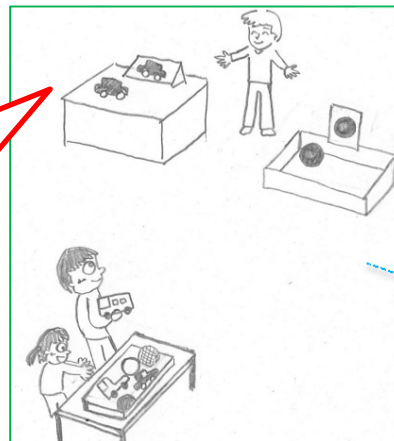
【確認カード】



- ・作業枠の下に、正解を確認できる確認カードを入れておく。


③

- ・小グループで、具体物の仲間集めゲームをする。



- ・②ができた子どもたちの集団で行う。
- ・②と同様に見本を置いて始める。
- ・車の玩具やボールなど、普段遊んでいるものを使って仲間集めゲームをする。
- ・②と同様、正解を確認できるカードも用意する。

指導計画 目安時数 (全 3 h)

ねらい	学習活動	
・分割した絵カードを合わせ、絵を完成する。	教科別	① ④ 2分割のパズルをする。 (1 h)
教科書☆P54~59		② ④ 4分割のパズルをする。 (1 h)
		③ ⑤ 集団でパズルを完成する。 (1 h)
	生活	○好きなキャラクターのパズルをする。

指導例

①

- ・教師は、作業枠に下絵を入れておく。
- ・教師が2分割された絵を提示し、「ケーキを作って」と声をかける。



2分割のパズル (下絵あり)

- ・初歩的な分析 (部分に分ける) と総合 (一つにまとめる) の学習。
- ・分割の仕方を横、斜め等、変えて行う。
- ・あまり複雑でなければ、子どもの好きな絵を使ってもよい。

- ・子どもが2分割の絵を組み合せる。



完成したところ

- ・下絵ありで、できたら、下絵なしで行う。



下絵なし

②

- ・教師は、作業枠に下絵を入れておく。
- ・教師が4分割された絵を提示し、「男の子を作って」と声をかける。



- ・①と同様に、下絵ありで行う。
- ・「これは、顔だね」など言葉をかけ、注意を向ける部分を示す。
- ・曲線で分割した絵を用いてもよい。

4分割のパズル（下絵あり）

- ・子どもが4分割の絵を組み合わせる。



完成したところ

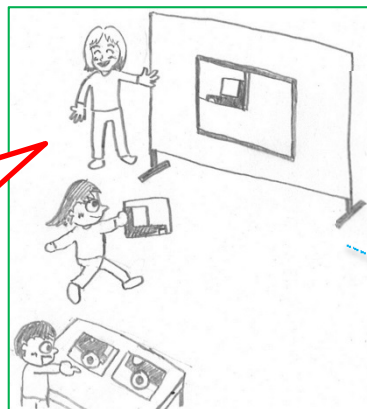
- ・①と同様に、下絵ありで、できたら下絵なしで行う。



下絵なし

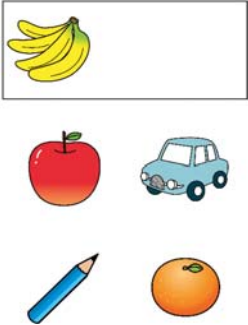
③

- ・小グループで、パズルを使ったゲームをする。



- ・②ができた子どもたちのグループで行う。
- ・①と同様に、下絵ありで始め、できたら下絵なしで行う。

指導計画 目安時数 (全3h)

ねらい	学習活動	
・関連の深い絵カードを集める。	教科別	① ④絵カードで仲間集めをする。(2h)
教科書☆P50～53		② ⑤絵カードによる仲間集めゲームをする。(1h)
	生活	○スーパーマーケットのお菓子のコーナーを見ながら、「お菓子」など、仲間を表す言葉に触れる。

指導例

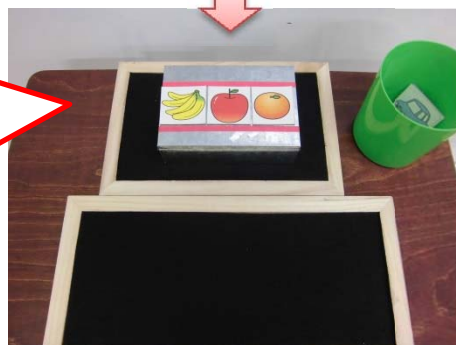
①【果物】

- ・教師が箱の上のバナナを指さし、「バナナと同じ果物の仲間はどれかな？」と声をかける。



関連の深い絵カードの仲間集め

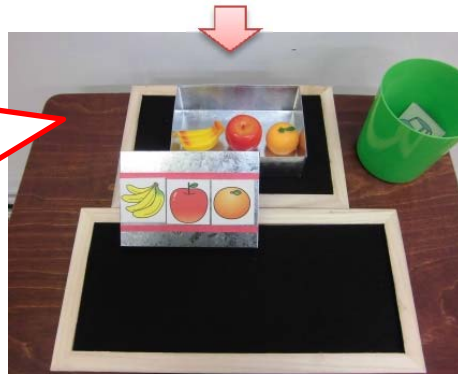
- ・子どもは、提示枠の絵カードの中から、果物だけを箱の上に置く。それ以外はバケツに入れる。



果物は箱の上へ、それ以外はバケツへ

- ・対象から果物の属性を抽出し(分析)、集める(総合)学習。
- ・「果物」という表現ではなく、「食べ物」など、子どもが言った言葉で仲間集めをしてもよい。
- ・果物以外のカードは「これは違うね」と声をかける。バケツに入れて見えなくなると、区別をつけやすい。
- ・間違えても、最後に子どもが答えを確かめるまで待つ。
- ・できたら、他の果物でも行う。

- ・箱のふたを開け、中の実物模型と絵カードを合わせて正解を確認する。



箱を開けて正解を確認する

②【動物】

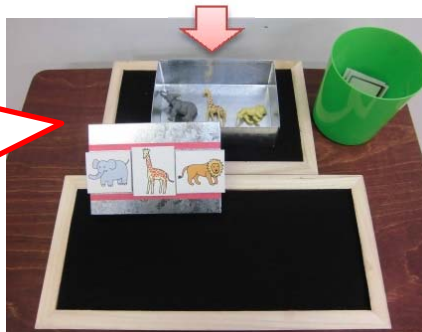
- ・①と同様に、動物の絵カードで行う。



動物は箱の上へ、それ以外はバケツへ

- ・難しい場合は、動物を「歩かせる」など動作化をするとよい。
- ・できたら、他の動物や乗り物などで行う。

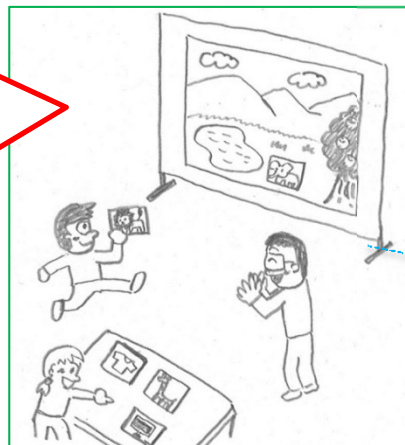
- ・箱のふたを開け、中の実物模型と絵カードを合わせて正解を確認する。



箱を開けて正解を確認する

③

- ・②と同様に、動物のカードを選んでホワイトボードに貼るなど、集団で動物の絵カードの仲間集めゲームをする。



- ・②ができた子どもたちの集団で行う。
- ・子どもが正解を確認するよう、正解と同じカードをホワイトボードの裏に貼っておく。

(3) 年間指導計画例

① 1段階 1学年

1年〇組〇〇グループ

指導者(〇〇 〇〇)

期	月 (目安 時数)	題 材 (時数 102 h) 【教科書掲載ページ】		反省 ・改善点
		教科別の指導 (34 h)	各教科等を 合わせた指導 (68 h)	
1 学 期 (11 h 合 22 h)	4 教 2 合 4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 ピンポンだまを いれよう (4 h)</p> <p>◎特定のものをつかみ、特定の場所に入れる</p> </div>	<p>※学校生活に慣れ、教師との信頼関係を形成することを重視。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;"> <p>どっちが おおきい? 【p11】</p> <p>◎大小に関心をもつ</p> </div>	
	5 教 3 合 6		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2 ボールとコインを わけよう (6 h)</p> <p>◎形の違いや方向を意識して、具体物を分ける</p> </div>	
	6 教 4 合 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffff00;"> <p>いろいろな かたちを さがしてみよう 【p34~37】</p> <p>◎いろいろな形に気付く</p> </div>		
	7 教 2 合 4		<p>・1学期のまとめ (1 h)</p>	
2 学 期 (14 h 合 28 h)	9 教 4 合 8	<p>・1学期の復習 (2 h)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffe0e0;"> <p>ぎゆうにゆうがないひとはだれ? 【p76、77】</p> <p>じゅんぴはいいかな 【p74】</p> <p>◎具体物があることが分かる</p> </div>	
	10 教 4 合 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3 たからさがし (6 h)</p> <p>◎目の前で隠されたものを探す</p> <p>◎見えていたものが隠れても、出てくることを予測して見る</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffe0e0;"> <p>ともだちいるかな?</p> <p>きょうのよていはなにかな? 【p 6~7】</p> <p>◎特定の人や物に注目する</p> </div>	

	11	あわせてみよう③④ (2 h) 【p60~67】 ◎型はめで、形の違いに気づき、 関心をもつ	どっちが おおい? 【p38】 ◎多少に気付く
	12	④ おなじものは どれかなく1> : 形と形 (3 h) ◎同じ形を選ぶ ・ 2学期のまとめ (1 h)	いろいろな かたちを つくってみよう 【p39】 ◎形に関心をもち、相違点や 類似点に気付く
3 学期 ( 9 h  18 h)	1	・ 2学期の復習 (1 h) ④ おなじものは どれかなく1> : 大と小 (3 h) ◎同じ大きさを選ぶ	じぶんのマークにいれよう 【p 5】 ◎色や形が同じものを選ぶ
	2	④ おなじものは どれかなく1> : 色と色 (3 h) ◎同じ色を選ぶ	
	3	◎ 2 ◎ 4 ・ 1年間のまとめ (2 h) ※これまでの教材を復習する。	

※記号等について

◎	: 教科別の指導
◎	: 各教科等を合わせた指導
領域:	桃色 : 数量の基礎
	青 : 量と測定
	黄 : 図形
◎	: ねらい

②1段階 2学年

2年〇組〇〇グループ

指導者(〇〇 〇〇)

期	月 (目安 時数)	題 材 (時数 105h) 【教科書掲載ページ】		反省 ・改善点
		教科別の指導 (35h)	各教科等を 合わせた指導 (70h)	
1 学 期 (③ 12 h ④ 24 h)	4 ③ 3 ④ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の復習 (3h) ※子どもが確実に分かることを確認。前年度の教材を使うと安心感が高まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※教師との信頼関係の形成を重視する。 	
	5 ③ 3 ④ 6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4 おなじものは どれかなく1) : 具体物と具体物 (3h)</p> <p>◎形や色が同じ具体物を選ぶ</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;"> <p>おもい? かるい? 【p12~13】</p> <p>◎重い、軽いに気付く</p> </div>	
	6 ③ 4 ④ 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4 おなじものは どれかなく1) : 絵カードと絵カード (4h)</p> <p>◎同じ絵カードを選ぶ</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>マークにあわせてならべよう 【p24~29】</p> <p>◎対応させて並べる</p> </div>	
	7 ③ 2 ④ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期のまとめ (2h) 		
2 学 期 (③ 14 h ④ 28 h)	9 ③ 4 ④ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の復習 (2h) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5 おなじものは どれかなく2) 具体物と絵カード (4h)</p> <p>◎具体物と照らして同じ絵カードを選ぶ</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>みほんどおりに くばろう 【p75】</p> <p>◎対応させて物を配る</p> </div>	

3 学 期 (9 h 合 18 h)	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑥ そろえてみよう (2h)</p> <p>◎関連の深い一対のものの組合せ が分かる</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #ffffcc;"> <p>だれの あしあとかな?</p> <p>【p40~43】</p> <p>◎形の違いに気付く</p> </div>	
	11	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑦ おなじものを あつめよう (3h)</p> <p>◎具体物で仲間を集める</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0f0ff;"> <p>どっちが ながい?</p> <p>どっちが たかい?</p> <p>【p30~33】</p> <p>◎長短に気付く</p> <p>◎高低に気付く</p> </div>	
	12	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・2学期のまとめ (3h)</p> </div>		
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・2学期の復習 (1h)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>⑧ あわせてみよう (3h)</p> <p>◎分割した絵カードを合わせ、絵 を完成する</p> </div> </div>		
	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⑨ なかまを あつめよう (3h)</p> <p>◎関連の深い絵カードを集める</p> </div>		
	3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・1年間のまとめ (2h)</p> <p>※これまでの教材を復習する。</p> </div>		

※記号等について

<p>⊗ : 教科別の指導</p> <p>⊕ : 各教科等を合わせた指導</p> <p>領域 :</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="background-color: #ffe0e0; padding: 2px;">桃色 : 数量の基礎</p> <p style="background-color: #e0f0ff; padding: 2px;">青 : 量と測定</p> <p style="background-color: #ffffcc; padding: 2px;">黄 : 図形</p> </div> <p>◎ : ねらい</p>

6 小学部 2 段階 (☆☆)

(1) 2段階 指導内容段階表

学年・組 () 児童生徒氏名 () 指導者 ()

番号	ねらい (口達成状況、記入日)	指導内容・教材例 〔掲載ページ〕	教科書の題材 〔教科書P〕
	<input type="checkbox"/> 1段階の復習 (/ /)	◎ 1段階で使用した教材で、復習をする	○ ともだち 〔P4~5〕
1	<input type="checkbox"/> 仲間分けができる <input type="checkbox"/> 色 (/ /) <input type="checkbox"/> 形 (/ /) <input type="checkbox"/> 大小 (/ /) <input type="checkbox"/> 用途・目的・機能 (/ /) ※「図形・数量関係」と関連を図る	◎ なかまわけ [P32] 	○ なかまあつめ (1)~(5) 〔P6~15〕
2	<input type="checkbox"/> 一対一対応ができる <input type="checkbox"/> ペアのカード (/ /) <input type="checkbox"/> 一対一対応 (/ /)	◎ くみあわせ [P34] 	○ くみあわせ (1)~(4) 〔P16~23〕
3	<input type="checkbox"/> 1~3までの数が分かる <input type="checkbox"/> 長短のはめ板 (/ /) <input type="checkbox"/> 棒ブロック (/ /) <input type="checkbox"/> ばらブロック (/ /)	◎ 3までのかず [P36] 	○ 10までのかず (1)~(3) 〔P24~39〕
4	<input type="checkbox"/> 1~5までの数が分かる <input type="checkbox"/> 棒ブロック (/ /) <input type="checkbox"/> ばらブロック (/ /)	◎ 5までのかず [P38] 	
5	<input type="checkbox"/> 1~10までの数が分かる <input type="checkbox"/> 棒ブロック (/ /) <input type="checkbox"/> ばらブロック (/ /)	◎ 10までのかず [P40] 	
6	<input type="checkbox"/> 1~10のものを数える <input type="checkbox"/> ばらブロック (/ /) <input type="checkbox"/> スライド教材 (/ /) <input type="checkbox"/> 音などを数える (/ /)	◎ かぞえてみよう [P42] 	

7	<input type="checkbox"/> 1～10の数字が読める <input type="checkbox"/> 1～3 (/ /) <input type="checkbox"/> 1～5 (/ /) <input type="checkbox"/> 1～10 (/ /)	<input checked="" type="radio"/> すうじをよもう [P44] 	<input type="radio"/> カードづくり (1)～(5) [P42～49]
8	<input type="checkbox"/> 1～10の数字が書ける <input type="checkbox"/> 1～3 (/ /) <input type="checkbox"/> 1～5 (/ /) <input type="checkbox"/> 1～10 (/ /)	<input checked="" type="radio"/> すうじをかこう [P46] 	
9	<input type="checkbox"/> 10までの数の大きさが分かる <input type="checkbox"/> 1～3(具体物・数字)(/ /) <input type="checkbox"/> 1～5(具体物・数字)(/ /) <input type="checkbox"/> 1～10(具体物・数字)(/ /)	<input checked="" type="radio"/> かずくらべ [P48] 	<input type="radio"/> プール [P54～55] <input type="radio"/> かずくらべ (1)～(5) [P56～65]
10	<input type="checkbox"/> 5は、「いくつといくつ」に分けられるかが分かる <input type="checkbox"/> 3までの分解 (/ /) <input type="checkbox"/> 5までの分解 (/ /) ※番号10と11は、子どもが理解しやすい方から実施してよい	<input checked="" type="radio"/> わけましよう [P50] 	<input type="radio"/> ゆうえんち [P66～67] <input type="radio"/> わけましよう (1)(2) [P72～75]
11	<input type="checkbox"/> 合わせて5になる数が分かる <input type="checkbox"/> 3までの合成 (/ /) <input type="checkbox"/> 5までの合成 (/ /)	<input checked="" type="radio"/> あわせましよう [P52] 	<input type="radio"/> あわせましよう (1)(2) [P68～71]
12	<input type="checkbox"/> 10までの数で、順序数が分かる <input type="checkbox"/> 順番が分かる (/ /) <input type="checkbox"/> 前・後から (/ /) <input type="checkbox"/> 上・下から (/ /) <input type="checkbox"/> 順序数と集合数(/ /)	<input checked="" type="radio"/> なんばんめ [P54] 	<input type="radio"/> うんどうかい [P40～41] <input type="radio"/> なんばんめ (1)(2) [P50～53]
	<input type="checkbox"/> 2段階の復習 (/ /)	<input checked="" type="radio"/> これまで使用した教材に取り組み、学習を振り返る	<input type="radio"/> しゃぼんだま [P76～77]
備考	<ul style="list-style-type: none"> □は達成状況を記入 (☑: 現在取り組んでいる ▣: 支援があればできる ■: 一人でできる) ・(/ /)は記入日 例:(H29/5/30) 		


(2) 指導例

2段階—1

なかまわけ

教材P67

指導計画 目安時数 (全6h)

ねらい	学習活動	
<p>・色や形、大きさ、目的・用途・機能に着目し、違いを見分けて分類する。</p> <p>※図形・数量関係の「いろいろなかたち」との関連を図る。</p>	教科別	① ④⑤色によって仲間を分ける。(1h)
<p>教科書☆☆(1)P6~15</p> 		② ④⑤形によって仲間を分ける。(1h)
		③ ④⑤大小によって仲間を分ける。(1h)
		④ ④⑤用途・目的で仲間を分ける。(3h)
	生活	<p>○体育で紅白のカラーコーンを色で分ける。</p> <p>○給食で食器等を、形、用途によって片付ける。</p>

指導例

①


- ・教師が容器に黄色と青の見本カードを貼り、見本を確認する。提示枠に黄色い円を置き、「これはどっちの仲間？」と聞く。
- ・子どもは黄色の容器に黄色い円を入れる。
- ・子どもが分けた後、教師が「こっちは黄色、同じだね」と名称を確認する。



色の仲間分け (見本あり・一つずつ提示)

- ・「同じ」「違う」「仲間」「集める」等の言葉をかけ、理解を促す。
- ・色の名称を言えることまでねらう。
- ・赤を入れて3種でも行う。

- ・一つずつ提示してできたら、一度に提示枠に置いて行く。



(見本あり・一度に提示)

- ・見本ありができたなら、見本なしで行う。
- ・教師が、円を一度に提示し「これ分けて」と言う。
- ・子どもが分けた後、教師が「こっちは何？」と聞き、子どもは「青」など答える。
- ・子どもが提示枠の裏から確認カードを取り、正解を確かめる。



色の仲間分け（見本なし）

- ・子どもが自分で基準（色等）を決めて分けることが大切である。
- ・見本をなくしてもよいかは、子どもに確認する。



確認カード

②

- ・①と同様の手順で、形で仲間を分ける。



形の仲間分け（見本なし）

- ・形の名称を言えることもねらう。
- ・四角を入れて3種でも行う。
- ・同じ図形を重ねたり、周を指で触れたりすると、分かりやすい。



確認カード

③

- ・①と同様の手順で、大小で仲間を分ける。



大小の仲間分け（見本なし）

- ・大小の差が大きい積み木や粘土など、違いを実感できるもので行うこともよい。
- ・大小の名称を言えることもねらう。



確認カード

④

- ・見本なしで、用途・目的・機能で仲間を分ける。
- ・子どもが分けた後、容器の底の確認カードで正解を確かめる。



目的による仲間分け

- ・飛行機を飛ばすなど動作化すると分かりやすい。
- ・その他の例は、教科書解説 P71 を参照。



容器の底の確認カード

指導計画 目安時数 (全 6 h)

ねらい	学習活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・密接に関係するものを組み合わせる。 ・一対一対応ができる。 	教科別	① ㊦ 関係する絵カードを組み合わせる。(2h)
教科書☆☆(1) P16~23 		② ㊦ 一対一対応をする。(同数で) (2h)
③ ㊦ 一対一対応で「多少・同じ」を確認する。(2h)		
生活		<ul style="list-style-type: none"> ○授業で一人に1枚ずつプリントを配る。 ○給食で一人に一つずつストローを配る。

指導例

①

- ・教師が作業枠に「茶碗、ケーキ、牛乳」の絵カードを入れて出す。茶碗を指さし、「ご飯を食べる時に使う物はどれ？」など聞く。



関係するカードを組み合わせる教材

- ・見た目には、全く違うもの同士を対応できることが大切。
- ・絵カードで難しい場合、具体物を使い、茶碗と箸で食べるまねをするなど動作化する。
- ・㊦P17の絵(机・椅子等)もカードにして行うとよい。
- ・その他の例(太鼓とばち、ほうきとちりとり、鉛筆と消しゴム等)は解説 P76 を参照。

- ・子どもは、関連するカードを選び、横に置く。



ペアのカードを横に置く

- ・子どもが、カードを裏返して絵を合わせ、正解を確かめる。



- ・カードの裏には、合わせると完成する絵が描いてある。

カードを裏返して、正解を確かめる

②

- ・教師は、くまの顔がついたケースを提示し、「くまさんにいちごをあげてね」と声をかける。



- ・1枠にいちご一つしか入らないようにする。
- ・子どもの好きなものを使って行うとよい。

一対一対応をする（同じ）

- ・子どもは、いちごの模型を一つずつ入れ、一対一対応をする。
- ・教師は、「くまさんといちご同じだね」と確かめる。



一枠に、一つずつ入れる

③

- ・②と同様に行い、いちごが少ないときは、教師がケースの空の部分を指さし、「あれ？いちごがない。いちごが少ないね」と、子どもと確認する。



いちごが 少ないとき

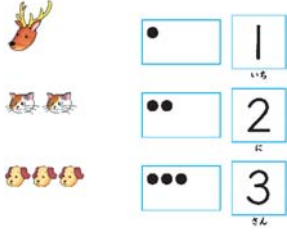
- ・いちごが多いときは、子どもが、余ったいちごを台紙の上に置く。
- ・教師が「いちごが多いね」と言葉を添え、一緒に確認する。



いちごが 多いとき

- ・本教材は、一対一対応を学ぶことをねらっているので、「多い」「少ない」は確認程度でもよい。
- ・いちごが多いときに置く場所を作ると、余ったことが分かりやすい。
- ・「多い」、「少ない」は、領域「量と測定」の学習と関連を図り、日常生活でも触れる機会をつくる。

指導計画 目安時数（全3h）

ねらい	学習活動	
<p>・1～3までの数が分かる。</p>	教科 別	① ④長短の棒ブロックをはめる。（1h）
教科書☆☆（1）P24～39		② ④1～3の棒ブロックの階段をつくる。（1h）
		③ ④1～3のばらブロックの階段をつくる。（1h）
	生活	<p>○クッキーが2個ぴったり入る食器（仕切りあり）にクッキーをのせる。 ○体育で、ボールが3個入る仕切りのあるケースに、3個のボールを入れて運ぶ。</p>

指導例

【教材説明】



棒ブロック
ブロックをつなげたもの



ばらブロック
一つ一つがはっきりするよう、シールを貼る



やね
ケースにスチレンボードを入れたもの

①

・教師が長短の棒ブロックを、一つずつ子どもに手渡し、「ここに、はめて」と言う。



作業枠 提示枠

長短の棒ブロックをはめる

・量をとらえる学習である。
・一つずつができたなら、一度に提示枠に並べて行う。
・ケースにはめた状態を見せてから行うのもよい。

②

・教師が、やねがついたブロックケースを提示し、棒ブロックを1～3の順に一つずつ提示する。



1～3の棒ブロックの階段（やねあり・一つずつ提示）

・やねがあることで、1は1にしかぴたりはまらず、数の量と順序を視覚と触覚で学習できる。

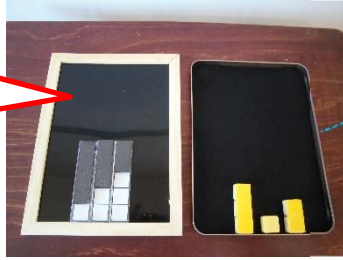
- ・教師が、やねがついたブロックケースを提示し、棒ブロックを一度に並べて提示する。
- ・子どもがはめる。



(やねあり・一度に並べて提示)

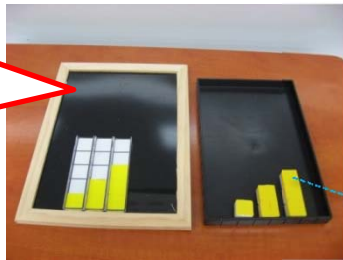
- ・3→1→2の順番ではめる子どもがいるが、はじめは、1～3の順番ではめなくともよい。
- ・はめられるようになったら、徐々に教師と数唱しながら1～3の順番にはめるよう促す。

- ・同様に、棒ブロックを順不同で一度に提示して行う。



(やねあり・順不同で提示)

- ・教師が、黄色い台紙がついたブロックケースを提示し、やねありと同じように行う。



(台紙あり)

- ・やねを取っていいかは、子どもに確認し、一緒取る。子どもは自信がつくと、自ら取ることを決める。
- ・台紙があることで、子どもが視覚的に確かめながら、1～3が作れる。

- ・やねも台紙もないブロックケースを提示し、やねありと同じように行う。

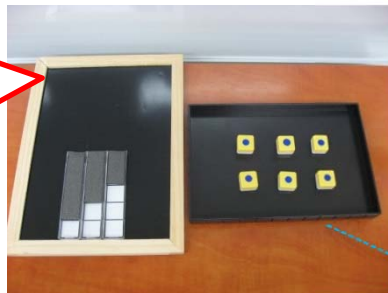


(やねなし・台紙なし)

- ・台紙を取る際も、子どもに確認してから取る。

③


- ・②と同じように、やねありから始め、台紙なしまで、ばらブロックを一度に提示して行う。



1～3のばらブロックの階段 (やねあり)

- ・ばらブロックをはめる際、「1」「1、2」「1、2、3」など数唱を促す。
- ・数字に興味のある場合、2段階-4のように、階段の下に数字カードを並べる学習を行ってもよい。

指導計画 目安時数 (全3h)

ねらい	学習活動	
<ul style="list-style-type: none"> 1～5までの数が分かる。 	教科 別	① ㊦ 1～5の棒ブロックの階段をつくる。(1h)
教科書☆☆(1) P24～39 		② ㊦ 1～5のばらブロックの階段をつくる。(2h)
	生活	○体育で、ボールが5個ぴったり入るケース(仕切りあり)に、5個のボールを入れて運ぶ。

指導例

①

- 教師が、やねがついたブロックケースを提示し、棒ブロックを一つずつ提示する。
- 子どもがはめる。はめたら、階段の下に数字カードを置く。



1～5の棒ブロックの階段 (やねあり・一つずつ提示)

- やね等の用語や効果については、2段階－3を参照。
- 数字カード並べは、子どもの実態に合わせ、可能であれば行う。
- 完成したら、階段の上部をトントンと登るように手で触れ、確認する。

- 教師が、やねがついたブロックケースを提示し、棒ブロックを一度に並べて提示する。
- 子どもがはめる。はめたら、階段の下に数字カードを置く。



(やねあり・一度に並べて提示)

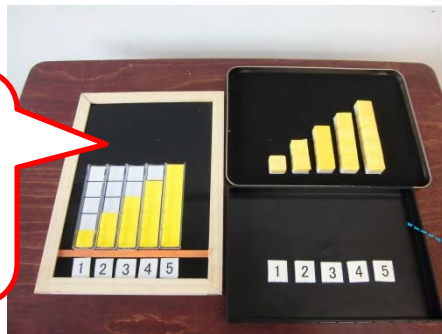
- 分かりやすい5からはめる子どもがいるが、はじめは、1～5の順番ではめなくともよい。
- はめられるようになったら、徐々に教師と数唱しながら順番にはめるよう促す。

- ・同様に、棒ブロックを順不同で一度に提示して行う。



(やねあり・順不同で提示)

- ・教師が、黄色い台紙がついたブロックケースを提示し、やねありと同じように行う。



(台紙あり)

- ・やねを取っていいかは、子どもに確認し、一緒を取る。子どもは自信がつくと、自ら取れることを決める。
- ・台紙があることで、子どもが視覚的に確かめながら、1～5が作れる。

- ・やねも台紙もないブロックケースを提示し、やねありと同じように行う。



(やねなし・台紙なし)

- ・台紙を取る際も、子どもに確認してから取る。

②

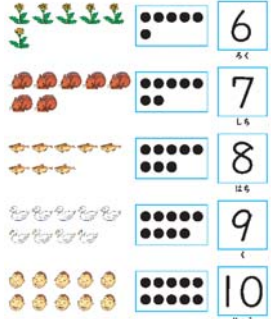
- ・①と同じように、やねありから始め、台紙なしまで、ばらブロックを一度に提示して行う。



1～5のばらブロックの階段（やねあり）

- ・ばらブロックをはめる際、「1」「1、2」「1、2、3」など数唱を促す。

指導計画 目安時数 (全4h)

ねらい	学習活動	
<p>・ 1～10までの数が分かる。</p> <p>教科書☆☆(1) P24～39</p> 	教科別	① ⑩ 1～10の棒ブロックの階段をつくる。(1h)
② ⑩ ばらブロックと5の棒ブロックで階段をつくる。(1h)		
③ ⑩ 1～10のばらブロックで階段をつくる。(2h)		
生活	○体育で、ボールが10個入るケース(仕切りあり)に、10個のボールを入れて運ぶ。	

指導例

①

- ・ 教師は、やねがついたブロックケースを提示し、棒ブロックを一度に並べて提示する
- ・ 子どもがはめる。



1～10の棒ブロックの階段
(やねあり・一度に並べて提示)

- ・ やね等の用語や効果については、2段階－3を参照。
- ・ 数字カード並べは、子どもの実態に合わせ、可能であれば行う。
- ・ 完成したら、階段の上部をトントンと登るように手で触れ、確認する。
- ・ はじめは、子どもが1～10の順番ではめなくともよい。徐々に数唱しながら順番にはめるよう促す。

- ・ 同様に、棒ブロックを順不同で一度に提示して行う。



(やねあり・順不同で提示)

- ・教師が、台紙がついたブロックケースを提示し、やねありと同じように行う。



(台紙あり)

- ・やねを取っていいかは、子どもに確認し、一緒取る。子どもは自信がつくと、自ら取ることを決める。

- ・やねも台紙もないブロックケースを提示し、やねありと同じように行う。



(やねなし・台紙なし)

- ・台紙を取る際も、子どもに確認してから取る。
- ・数字カード並べも、見本を取ってもいいか、子どもに確認し、見本なしで行ってもよい。

②

- ・教師が、6以降に、5の棒ブロックを入れておく。
- ・子どもは、5と1で6になるようにはめる。
- ・できたら、5の棒ブロックも子どもがはめる。



ばらブロックと5の棒ブロックの階段

- ・5のまとまりの理解につながるよう、5の棒ブロックは白、ばらブロックは黄色の面を使う。
- ・棒の教材を子どもと作るのもよい。

③


- ・①と同じように、やねありから始め、台紙なしまで、ばらブロックを一度に提示して行う。



1～10のばらブロックの階段 (やねあり)

- ・全てばらブロックで階段を作ることが、子どもにとって負担が大きい場合は、1～5をはめておき、6～10から行うようにしてもよい。

指導計画 目安時数 (全6h)

ねらい	学習活動	
<p>・1～10の数詞とものを対応させながら正確に数える。</p> <p>教科書☆☆(1) P24～39</p> 	教科 科 別	① ㊦ 数字を見てブロックをケースに入れる。(2h)
		② ㊦ スライド教材で1～10を数える。(2h)
		③ ㊦ 音(見えないもの)を数える。(2h)
	生 活	<p>○クラスの数分の準備物を数える。</p> <p>○ボウリングのピンを数える。</p> <p>○ブランコや縄跳びの動きを数える。</p>

指導例

①

・教師が作業枠の10のブロックケースの下に階段から数字カード3を移動し、「3個ブロック数えて」と言う。



・1～5ができたなら、1～10で行う。

数字を見てブロックを数える教材

・子どもは数字カードと同じ数のブロックを、階段教材から抜きながら数え、ケースに入れる。



・慣れた階段教材の手がかりで、安心して取り組める。

階段教材からブロックを抜きながら数える

- ・ 階段教材でできたら、階段をなくし、ばらブロックのみで同様に行う。

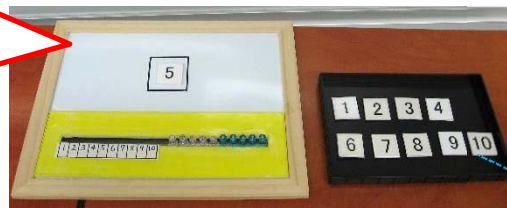


- ・ 階段の手がかりがないので難しくなる。

数字を見てブロックを数える教材（階段なし）

②

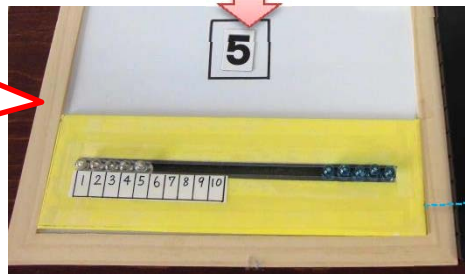
- ・ 教師が、四角い枠に5の数字カードを置き、「5個数えて」と言う。



- ・ 数唱と動作がずれてしまう子どもに行うとよい。
- ・ 1～5ができれば1～10で行う。

1～10のスライド教材で数える

- ・ 子どもは、数字と同じ数の磁石を左にスライドさせながら数える。



- ・ できるようになったら、スライドする溝の下の数字テープを取ってよいか、子どもに確認し、一緒にはがして行う。

5個の磁石を左にスライドする

③

- ・ 教師が缶の中に立方体を落とす。
- ・ 子どもは、音に合わせ、数字枠にマグネットを置く。
- ・ 子どもが、缶の中の立方体を数字枠に置き、正解を確かめる。




教師が缶に立方体を落とす音を、子どもが数える

- ・ まず、教師が立方体を落とすところを子どもに見せながら行う。
- ・ できたら、落とすところを見せず、音のみで行う。
- ・ 1～3ができれば、1～5で行う。

※教科書解説にある「0（ゼロ）の理解」は、3段階で二桁の数を学習する際に扱う。

指導計画 目安時数（全3h）

ねらい	学習活動	
<p>・1～10の数字が読める。</p>	教科別	① ㊦ 1～10の数字の型はめをする。（1h）
教科書☆☆（1）P42～49		② ㊦ 1～10の数字の見本合わせをする。（1h）
		③ ㊦ 数詞を聞いて、1～10の数字を当てる。（1h）
	生活	○朝の会で、予定を確認する際、数字と予定を読む。

指導例

①

・子どもが、1～5の数字を読みながら、型はめをする。



1～5の数字の型はめ

・子どもが、1～10の数字を読みながら、型はめをする。



6～10の数字の型はめ

- ・2段階－6までの学習で、数字は読めていると思われるが、数字の読み方が不確実な子どもに行う。
- ・型はめをすることで、数字の形の違いに注目できる。
- ・1～5ができれば、1～6に進み、最後は1～10を行う。

②

- ・教師が提示枠に「6」の透明カードを置き、「6はどっち？」と聞く。



1～10の数字の見本合わせ

- ・子どもは、6の透明カードを6の数字カードの上に重ねる。



6の透明カードを6の上へ置く

- ・透明カードは、数字カードとぴったり重なるので、正解だと分かる。



ぴったり重なったところ

- ・①と同様、数字の読みが不確実な子どもに行う。
- ・見本の数字カードには、ブロックの絵があり、量もヒントになる。

【見本カードと透明カード】



- ・1～5ができたなら、1～10を行う。
- ・透明カードでできたなら、通常の数字カードで行う。

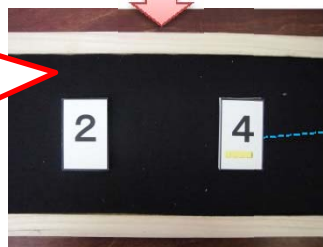
③

- ・教師が「4はどっち？」と聞く。
- ・子どもは、4の数字カードを指さす。



数詞を聞いて、数字を選ぶ

- ・子どもが、選択したカードをめくり、裏のブロックの絵を数えて、正解を確認する。



カードを裏返して、正解を確認する


- ・①と同様、数字の読みが不確実で必要な子どもに行う。
- ・1～5ができたなら、1～10を行う。

- ・裏返して正解を確認できる数字カードを使う。



表 裏

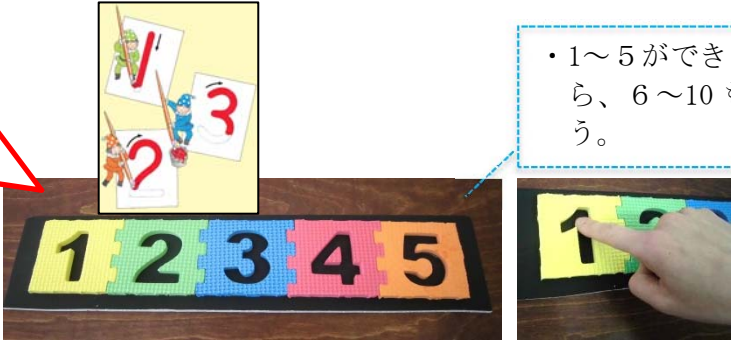
指導計画 目安時数 (全 7 h)

ねらい	学習活動	
<p>・ 1～10 の数字が書ける。</p>	教科別	① ④ 1～10 の数字の溝をなぞる。 (1 h)
<p>教科書☆☆ (1) P42～49</p> 		② ④ 浮き出し数字をペンでなぞる。 (2 h)
		③ ④ ガイド付きシートで数字を書き、カードを作る。 (2 h)
		④ ④ ブロックを数えて、数字を書く。 (1 h)
		⑤ ⑤ 数字カードと同じ数のブロックを置く。(1 h)
	生活	<p>○ゲームで、得点の数字を書く。 ○朝の会で、日付や出席者の人数を書く。</p>

指導例

①

- ・ 子どもと、教科書 P42～45 の絵を見て筆順を確認する。
- ・ 子どもが、数唱しながら 1～5 の溝を指でなぞる。

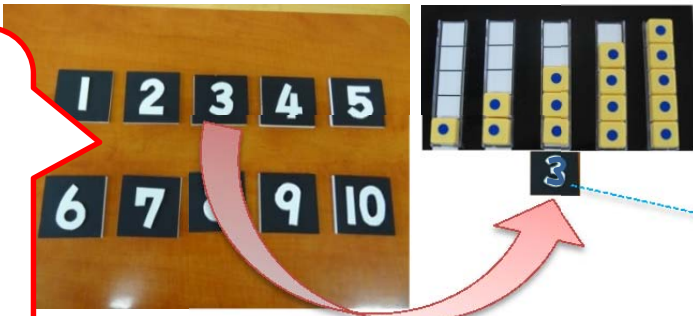


指で数字をなぞる

・ 1～5 ができたら、6～10 も行う。

②

- ・ 子どもが、1～10 の浮き出し数字をペンでなぞる。
- ・ 書いた数字をブロックの階段教材の下に置く。

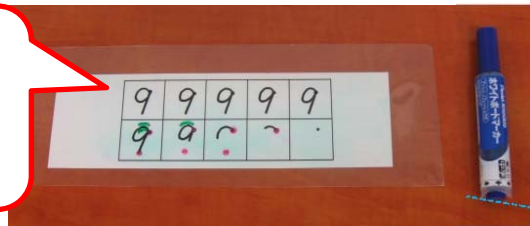


浮き出し数字をなぞる

- ・ 浮き出しの数字は、線から外れたときに落ちるので分かりやすい。
- ・ 「階段の下に置こう」など、子どもが目的をもって書けるようにする。

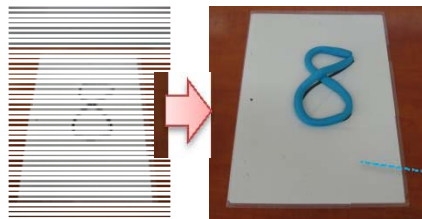
③

- ・ 1～10の数字を立体的ガイド付きシートを使って書く。



ガイド付きシートで数字を書く

- ・ 立体的ガイドがあることでなぞりやすくなる。
- ・ ペンは、線と違う色で、書きやすい太さにする。
- ・ 「ゲームで使うカードを作ろうね」など、子どもが目的をもって書けるようにする。



粘土で数字をつくる

- ・ 線の長さや交差部分が分かるよう、紙に書いた数字に合わせ、粘土で数字を作るのもよい。

④

- ・ 教師が、提示枠のブロックを、作業枠のケースに入れ、「数えて数字を書いてね」と言う。



ブロックを数え、数字を書く

- ・ 子どもは、ケースのブロックを数え、紙に数字を書く。



- ・ どの数字が、うまく書けたかを子どもと決め、うまく書けた数字をラミネート加工して、⑤のゲームに使うのもよい。

⑤

- ・ 二人組で、相手に自分が書いた数字カードを見せる。
- ・ 相手は、数字カードと同じ数のブロックをケースに並べる。



数字カードを出す



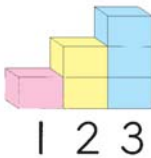
数字カードと同じ数のブロックを並べる

- ・ 数字カードの裏に、ブロックの絵を貼ると、子ども同士で正解を確認できる。



数字カードの裏

指導計画 目安時数 (全7h)

ねらい	学習活動	
<p>・1～10の数を具体物で比べ、数の大小が分かる。 ・1～10の数を2枚の数字カードで比べ、大小が分かる。</p> <p>教科書☆☆ (1) P56～65</p> 	教科別	① ④ 3まで、5まで、10までの玉さしで、多少を比べる。(2h)
		② ④ 3まで、5まで、10までのものの絵で、多少を比べる。(2h)
		③ ④ 3まで、5まで、10までの数字を見て、数の大小を比べる。(2h)
		④ ④ 1～10の数字カードで大小ゲームをする。(1h)
生活		○ゲームで、2つのチームの点数を比較する。

指導例

①

・教師が赤1、黄3の玉をさし、「どちらが多い？」と聞く。



玉さしで多少を比べる(1～3)教材

【多少・同じの透明板】



・子どもは、さした玉を数えて、数字カードを枠に置く。



玉を数え、数字カードを置く

・事前に、領域「量と測定」の「大小」「多少」を扱うとよい。
 ・3までができたなら、5まで、10まで行う。
 ・おなじ、おおい、すくないなど、徐々に語を増やす。

・子どもは、多少の透明板を棒にさして比較し、「黄色が多い」などと言う。



多少の透明板で比べる



同じ場合

②

- ・子どもが、3個と5個のりんごの絵を数え、りんごと同じ数の玉をさし、数字カードを枠に置く。
- ・①と同様、多少を比較する。



物の絵を見て、多少を比べる

- ・②P59、60の絵を問題として使用できる。
- ・絵は整然と並んでいるものから始める。
- ・可能であれば、「きいろが**おおい**」など、単語カードで文の構成も行う。

③

- ・②と同様に、2つの数字を見て、大小を比較する。



数字を見て、数の大小を比べる

【大小の透明板】



- ・ここから、多少ではなく、数の大小になる。
- ・②P61、65が問題として使用できる。

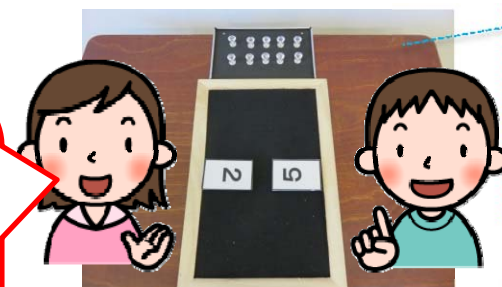


文を構成する

- ・可能ならば、「**8**は**6**より**2**おおきい」などの文の構成も行う。

④

- ・二人組で互いに10までの数字カードを持ち、一枚ずつ出し合って、数字の「大きい」方が勝つゲームをする。
- ・1回勝つごとに宝を一つ取り、最後に獲得した宝の数を比較する。



カードを出し合う

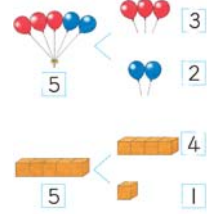
- ・③の学習ができるようになったら行う。
- ・宝は磁石などでよい。



裏返して大小を確かめる

- ・2段階-7③の数字の裏にブロックの絵があるカードを使う。

指導計画 目安時数 (全8h)

ねらい	学習活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3を分けると、2と1に分けられることを知る。 ・ 5を分けると、「いくつといくつ」に分けられるかを知る。 	教科別	① ④ 3個のブロックを分ける。 (2h)
教科書☆☆ (1) P72~75		② ④ 5個のブロックを分ける。 (2h)
		③ ④ おはじきの数のあてっこをする。 (2h)
生活		④ ④ 数字のみでいくつといくつかを答える。(2h)
		○ 5個の子どもの好きなものを、先生と二人で分けるなど、具体物を分ける際に、「分ける」という言葉を使う。

指導例

①

・ 教師が、見本の3のカードとブロックを指さし「3を分けるよ」「3は2といくつ?」と聞き、左の枠に2の数字カードを置く。

・ あらかじめ作業枠に見本の3個のブロックと3のカードを入れておく。



3を分ける教材

・ 子どもが、上の3の見本を見て、下のケースに3個のブロックを置く。

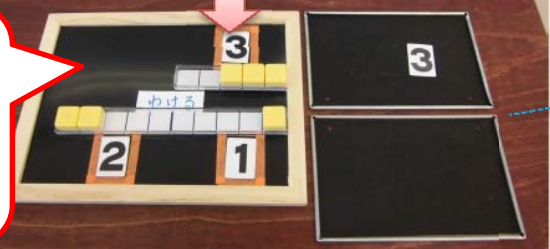
・ ブロックを実際に分ける操作を通して、分けることを学ぶ。



見本ブロックの下にブロックを置く

・ 子どもは、下のブロックを左に2個スライドする。右に残ったブロックを数え、1の数字カードを置き、「3は2と1」と答える。

・ ブロックを実際に分ける操作を通して、分けることを学ぶ。



ブロックを分けて数える

②

- ・教師が、見本の5のカードとブロックを指さし「5を分けるよ」「5は3といくつ？」と聞き、左の枠に3の数字カードを置く。



- ・あらかじめ作業枠に見本の5個のブロックと5のカードを入れておく。

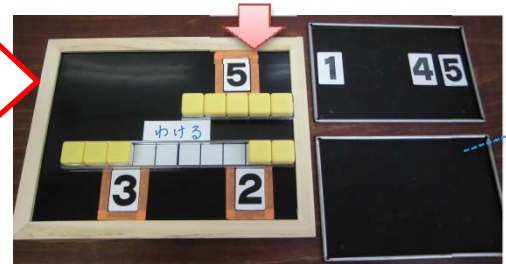
5を分ける教材

- ・子どもが、上の5の見本を見て、下のケースに5個のブロックを置く。



見本ブロックの下にブロックを置く

- ・子どもは、下のブロックを左に3個スライドする。
- ・右に残ったブロックを数え、2の数字カードを置き、「5は3と2」と答える。



ブロックを分けて数える

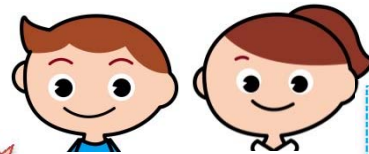
- ・ブロックでできるようになったら、徐々に、様々な具体物、ドットの図や数字のみで答えることを提案する。

③

- ・二人組で、一方の子どもが、5個のおはじきを両手に分けて持つ。



5個のおはじき



- ・おはじきは3個から始めるとよい。

- ・片手を開いて、2個のおはじきを相手に見せる。
- ・相手は、もう片方のおはじきを当てる。

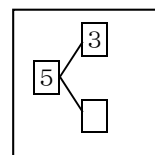


もう片方はいくつ？

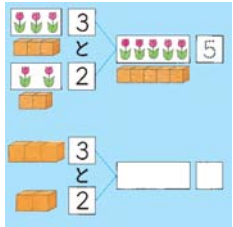
- ・両手を開いて、答えを確かめる。

答えを確かめる

④ 右のような数字だけを見て、いくつといくつかを答える。




指導計画 目安時数 (全6h)

ねらい	学習活動	
<ul style="list-style-type: none"> 合わせて3になる数が分かる。 合わせて5になる数が分かる。 	教科別	① ④ 1～3のブロックを合わせる。(2h)
教科書☆☆(1) P68～71 		② ④ 1～5のブロックを合わせる。(2h)
		③ ④ 数字のみで合わせていくつかを答える。(2h)
生活	○子どもの好きな具体物を用意し、「合わせていくつ?」と聞いて、数える。	

指導例

①

・教師が「1と2は、合わせるといくつ?」と言い、数字提示枠から作業枠に1と2の数字カードを置く。




作業枠

合わせる教材(1～3)

・あらかじめ、作業枠に見本の3個のブロックと3のカードを入れておく。

・子どもが、ブロック提示枠から、左に白ブロック1個、右に黄ブロック2個を取り作業枠に置く。




左右にブロックを置く

・ブロックを実際に合わせる操作を通して、合わせることを学ぶ。

・子どもは、右のブロック2個を左にスライドして合わせる。

・見本の3個と同じであることを確認し、「1と2を合わせると3」と答える。



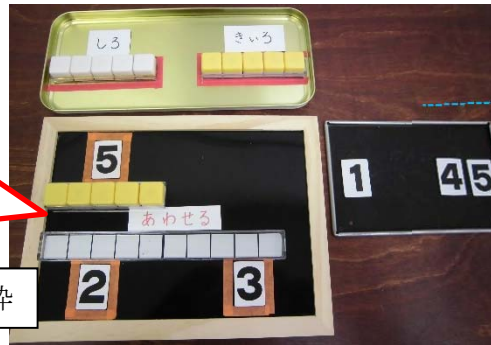
ブロックを合わせて数える

・白と黄のブロックを使うことで、いくつといくつを合わせたのかが分かりやすい。

②

- ・教師が「2と3は、合わせるといくつ？」と言い、作業枠に2と3の数字カードを置く。

作業枠



合わせる教材 (1~5)

- ・あらかじめ作業枠に見本の5個のブロックと5のカードを入れておく。

- ・子どもが、ブロック提示枠から、左に白ブロック2個、右に黄ブロック3個を、作業枠に置く。



左右にブロックを置く

- ・子どもは、右のブロック3個を左にスライドして合わせる。
- ・見本の5個と同じであることを確認し、「3と2を合わせると5」と答える。



ブロックを合わせて数える

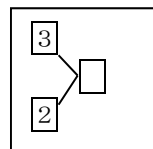
- ・5の見本ありでできたら、見本なしで行ってもよい。




5の見本なしで行う

- ・ブロックでできるようになったら、徐々に様々な具体物、ドットの図や数字のみで答えることを提案する。

③ 右のような数字だけで、合わせていくつかを答える。



指導計画 目安時数（全8h）

ねらい	学習活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・1～10番目までの順番が分かり、順序数が使えるようになる。 ・順序数と集合数の違いを理解する。 ※領域「図形・数量関係」の「上下」「前後」との関連を図る。	教科別	① ⑩ 1～10番目の順番をつける。 (2h)
教科書☆☆(1) P50～53 		② ⑩ 前・後から何番目を答える。 (2h)
		③ ⑩ 上・下から何番目を答える。 (2h)
		④ ⑩ 順序数と集合数を答える。 (2h)
	生活	○かけっこで順位の数字カードを走者に渡す。 ○ブランコを並んで待つときに、「前から3番目だね」など話す。

指導例

①

・子どもが、巾着の中の人物カードを、「だれが出るかな？」と、くじのように取る。



1～10番目の順番をつける

・子どもは、取った人物カードを左から並べ、「かーくんは1番だ」と、数字カードを下に置いていく。

・全部並んだら、教師が数字カードを指さし、「2番目はだれ？」と聞き、子どもは確認して「ちひろさん」と答える。

・同様に、教師が「りゅうさんは何番目？」と聞き、子どもが「3番目」と答える。



何番目かを答える

- ・人物カードは子どもや教師の写真がよい。
- ・3まで、5まで、10までと徐々に数を増やす。
- ・答えられるようになったら、子どもに確認してから、数字カードなしで行う。

②

- ・教師が「前から3番目はだれ？」と聞き、**まえ**と**3**のカードを図の下の枠に置く。



「前から何番目」の教材

- ・動物の上に、数字があるところから始める。できたら、子どもに確認し、取って行く。
- ・前からのみ、後ろからのみができたら、前・後からの教材を使う。
- ・きりんなどの文字の読みが難しい場合、絵カードで文を構成してもよい。

- ・子どもは、赤枠を、「1番、2番、3番」と言いながら右に動かし、赤枠の中のキリンを確認して、文構成枠に**キリン**のカードを置いて、文を読む。



赤枠をスライドする



後ろから



前後から

③

- ・上下からも②と同様、上からのみ、下からのみ、上・下からの教材を使って行く。



「上・下から何番目」の教材

- ・動物絵カードの位置は、変えて行く。
- ・動物の名前は絵カードを使ってよい。

④

- ・教師が、「**した**から**5**こはどれ？」と聞き、カードを文構成枠に置く。
- ・子どもは、下から5つの動物を取って、右下の枠に置き、「下から5個は、ねこ、かえる…」と文を読む。



「上・下から何個」の場合

- ・可能ならば、動物の下に名前カードも置く。
- ・④ができるようになったら、③と合わせて行い、順序数が集合数が切り替えられるようにする。

(3) 年間指導計画例

① 2段階 3学年

3年〇組〇〇グループ

指導者(〇〇 〇〇)

期	月 (目安 時数)	題 材 (時数 140h) 【教科書掲載ページ】		反省 ・改善点
		教科別の指導 (35h)	各教科等を 合わせた指導 (105h)	
1 学期 (④ 12 h ④ 36 h)	4 ④ 3 ④ 9	・前年度の復習 (2h) ※子どもが確実に分かることを確認。前年度の教材を使うと安心感が高まる。	※教師との信頼関係の形成を重視する。 おおきい、ちいさい【p4~9】 ◎直接比較で大小が分かる ◎大中小の系列に気付く ◎同じ大きさ、半分か分かる	
	5 ④ 3 ④ 9	かたはめ (2h) 【p26~29】 ◎まる、三角、四角の名称が分かる	おおい、すくない【p10~13】 ◎直接比較で多少が分かる ◎同じ量が分かる ◎一番多い、少ないが分かる	
	6 ④ 4 ④ 12	1 なかまわけ (6h) ◎色、形、大小、用途・目的・機能で仲間分けができる	たかい、ひくい【p18~21】 ◎直接比較で高低が分かる ◎同じ高さが分かる ◎一番高い、低いが分かる	
	7 ④ 2 ④ 6	・1学期のまとめ (2h)	あさ、ひる、よる【p50~55】 ◎朝、昼、夜が分かる ◎いろいろな時計に気付く	
2 学期 (④ 4 h ④ 42 h)	9 ④ 4 ④ 12	・1学期の復習 (1h) いろいろな かたち (2h) 【p30~39】 ◎大きさや色が変わっても、同じ形であることが分かる ◎身近にあるものの形が分かる	ながい、みじかい【p14~17】 ◎直接比較で長短が分かる ◎一端をそろえて測ることが分かる	
	10 ④ 4 ④ 12			

	11	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffe6e6; padding: 5px;"> <p>2 くみあわせ (6h)</p> <p>◎関連する絵カードを組み合わせる</p> <p>◎一対一対応が分かる</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; background-color: #e6ffe6; padding: 5px;"> <p>かいもの【p62~65】</p> <p>◎お金と物の交換が分かる</p> <p>◎品物には決まった値段があることが分かる</p> </div>
	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffe6e6; padding: 5px;"> <p>3 3までのかず (3h)</p> <p>◎1~3までの数が分かる</p> </div> <p>・2学期のまとめ (2h)</p>		
3学期 (9h) (27h)	1	<p>・2学期の復習 (1h)</p> <div style="border: 1px solid black; background-color: #ffe6e6; padding: 5px;"> <p>4 5までのかず (3h)</p> <p>◎1~5までの数が分かる</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffffe6; padding: 5px;"> <p>あたったら〇【p48~49】</p> <p>◎記号としての〇×の意味が分かる</p> </div>
	2	<div style="border: 1px solid black; background-color: #ffe6e6; padding: 5px;"> <p>5 10までのかず (4h)</p> <p>◎1~10までの数が分かる</p> </div>	
	3	<p>・1年間のまとめ (1h)</p> <p>※これまでの教材を復習する。</p>	

※記号等について

◎	教科別の指導								
◎	各教科等を合わせた指導								
領域：	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="background-color: #ffe6e6;">桃色</td> <td>数量の基礎</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e6ffe6;">青</td> <td>量と測定</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ffffe6;">黄</td> <td>図形・数量関係</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #e6ffe6;">緑</td> <td>実務</td> </tr> </table>	桃色	数量の基礎	青	量と測定	黄	図形・数量関係	緑	実務
桃色	数量の基礎								
青	量と測定								
黄	図形・数量関係								
緑	実務								
◎	ねらい								

②2段階 4学年

4年〇組〇〇グループ

指導者(〇〇 〇〇)

期	月 (目安 時数)	題 材 (時数 140h) 【教科書掲載ページ】		反省 ・改善点
		教科別の指導 (70h)	各教科等を 合わせた指導 (70h)	
1 学期 (㊦ 24 h ㊧ 24 h)	4 ㊦ 6 ㊧ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の復習 (4h) ※子どもが確実に分かることを確認。前年度の教材を使うと安心感が高まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ※教師との信頼関係の形成を重視する。 	
	5 ㊦ 6 ㊧ 6	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ㊦ かぞえてみよう (6h) ◎1~10のものを数える </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> おもい かるい【p22~23】 ◎直接比較で、重い、軽いが分かる </div>	
	6 ㊦ 8 ㊧ 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ㊦ すうじをよもう (3h) ◎1~10の数字が読める </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> なかとそと 【p42~43】 ◎「なか、そと」が分かる </div>	
	7 ㊦ 4 ㊧ 4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ㊦ すうじをかこう (7h) ◎1~10の数字が書ける </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> あしたは おやすみ 【p58~61】 ◎「あした」が分かる </div>	
	7 ㊦ 4 ㊧ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期のまとめ (4h) 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> きのう、きょう【p56~57】 ◎「きのう、きょう」が分かる </div>	
2 学期 (㊦ 28 h ㊧ 28 h)	9 ㊦ 8 ㊧ 8	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の復習 (3h) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ㊦ かずくらべ (7h) ◎10までの数の大小が分かる </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ひろい、せまい【p24~25】 ◎直接比較で、広い、狭いが分かる </div>	
	10 ㊦ 8 ㊧ 8	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ㊦ わけましょう (8h) ◎5は「いくつといくつ」に分けられるかが分かる </div>		

	11		
	⑧ 6 ⑨ 6	11 あわせましょう (8 h) ◎合わせて5になる数が分かる	いろいろな おかね 【p66~67】 ◎いろいろなお金の種類が分 かり、分類できる
	12		
	⑧ 6 ⑨ 6	・2学期のまとめ (2 h)	
3 学期 (⑧ 18 h ⑨ 18 h)	1	・2学期の復習 (2 h)	
	⑧ 6 ⑨ 6	うえとした (5 h) 【p40~41】 ◎「うえ、した」が分かる	まえとうしろ【p44~47】 ◎「まえ、うしろ」が分かる
	2		
	⑧ 8 ⑨ 8	12 なんばんめ (8 h) ◎10までの数で、順序数が分かる	
	3		
	⑧ 4 ⑨ 4	・1年間のまとめ (3 h) ※これまでの教材を復習する。	

※記号等について

⑧	: 教科別の指導
⑨	: 各教科等を合わせた指導
領域:	
	桃色: 数量の基礎
	青: 量と測定
	黄: 図形・数量関係
	緑: 実務
◎	: ねらい

7 各教材について

(1) 材料

各教材の材料は、ホームセンター等で手に入り、加工も容易なものである。

- ・ コルクボード ・ ブラックボード ・ 透明な箱（又は容器） ・ 不透明な箱
- ・ 発泡素材のブロック（直方体、立方体） ・ ストロー ・ 割り箸 ・ 不織布（黒）
- ・ ピンポン玉 ・ 金属板（キッチン用ステンレス補助プレート） ・ 製氷皿
- ・ 角材（幅 10 mm×厚さ 3 mm） ・ スチレンボード（白、黒等） ・ 小さいバケツ
- ・ ピン型マグネット ・ マグネットシート ・ 数字パズル ・ 透明な板（又は透明な下敷き） ・ マグネット付き数字カード ・ マスキングテープ ・ ビニールテープ 等

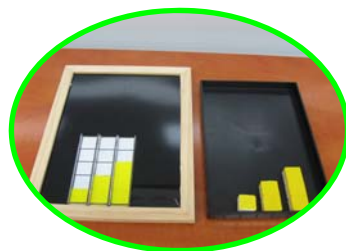
(2) ダウンロード（DL）素材

指導例で紹介しているイラスト等のうち、当センターのHPよりダウンロードできるものには、作り方で「DL可」と記載している。

- ・ **教材 8** 1段階－4 おなじものは どれかな⑤
- ・ **教材 9** 1段階－6 そろえてみよう
- ・ **教材 11** 1段階－8 あわせてみよう①②
- ・ **教材 12** 1段階－9 なかまを あつめよう①②
- ・ **教材 14** 2段階－1 なかまわけ③
- ・ **教材 15** 2段階－2 くみあわせ①
- ・ **教材 24** 2段階－7 すうじをよもう②
- ・ **教材 25** 2段階－7 すうじをよもう③
- ・ **教材 34** 2段階－12 なんばんめ②
- ・ **教材 35** 2段階－12 なんばんめ③



※本資料には、文部科学省著作教科書から引用したイラストがあります。これらのイラストについては、授業や研修等の目的以外に使用しないよう、御注意ください。



(3) 作り方

教材 1 提示枠・作業枠



用意するもの

コルクボード（又は缶のふた）、不織布（黒）、スプレーのり

作り方

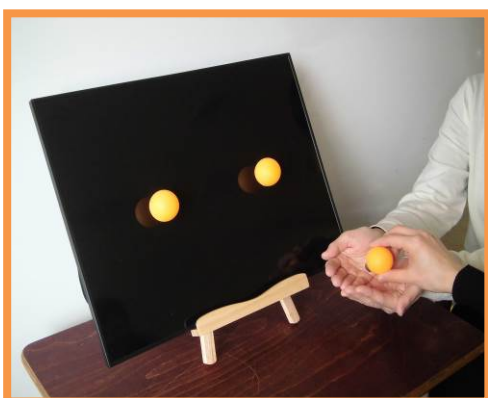
- ① 黒い不織布をコルクボードの大きさに切る。
- ② コルクボードにスプレーのりを吹きかける。
- ③ コルクボードに黒い不織布を貼る。



ポイント

- ・「提示枠」は、教師が教材を提示する際に使い、「作業枠」は、子どもが教材を操作する際に使う枠を示す。
- ・黒い枠で空間を区切ることにより、子どもが見やすく、対象物に注目しやすくなる。
- ・少し大きめの缶のふたに、コルクボードと同様の手順で黒い不織布を貼ってもよい。

教材 2 1段階－1 ピンポンだまを いれよう②③



用意するもの

ブラックボード（つや消しのものがよい）、書見台（又はイーゼル）、ピンポン玉3個、小さいマグネット3個

作り方

- ① ピンポン玉に磁石をセロハンテープで貼り付ける。
- ② ブラックボードにピンポン玉を並べる。



ポイント

- ・ブラックボードは、子どもがまぶしさを感じないように、つや消しのものがよい。
- ・ピンポン玉は子どもの見やすい色がよい。

教材3 1段階-1 ピンポンだまを いれよう④



用意するもの

作業枠、缶、透明な容器（やや深めのもの）、ピンポン玉、コンパス

作り方

- ① 透明な容器のふたにコンパスで穴を開けるための円を描く。
- ② カッターで穴を切り抜く。



ポイント

- ・ 容器のふたに開ける穴は、ピンポン玉がスッと入る大きさではなく、ピンポン玉の直径より僅かに小さくする。子どもがピンポン玉を入れる感覚を楽しめる。
- ・ 容器は透明にして、入った玉が分かるようにする。

教材4 1段階-2 ボールとコインを わけよう①



用意するもの

提示枠、作業枠、発泡スチロール、ストロー、竹製割り箸（丸棒状）、ビニールテープ（赤）、ペン、千枚通し

作り方

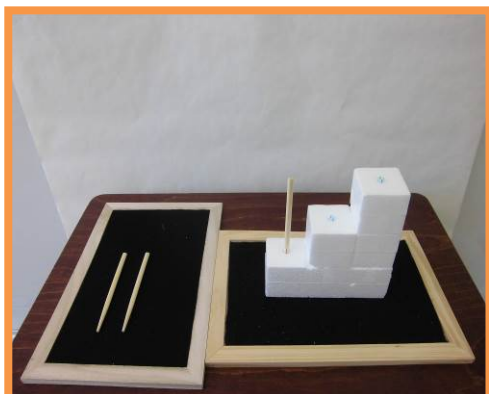
- ① 発砲スチロールにペンで等間隔に印をつけ、千枚通しで下穴をあける。
- ② 割り箸を、子どもの扱いやすい長さに切る。
- ③ ストローを発砲スチロールの高さに切る。
- ④ ストローを割り箸に通し、そのまま下穴にさし、割り箸だけを引き抜く。
- ⑤ 穴が目立つように、ビニールテープを貼ってもよい。



ポイント

- ・ 割り箸の太さに合うストローが必要である。
- ・ 割り箸は、子どもが扱いやすい長さにする。
- ・ 穴の数は、子どもの実態に合わせて変える。

教材5 1段階-2 ボールとコインを わけよう①



用意するもの

提示枠、作業枠、発泡スチロール（直方体 1個、立方体 3個）、ストロー、竹製割り箸（丸棒状）、ペン、千枚通し

作り方

- ① 直方体の発泡スチロールに、立方体を木工用ボンドで付けて、階段状にする。
- ② ペンで等間隔に印をつけ、千枚通しで下穴をあける。
- ③ ストローを立方体の発泡スチロールの高さに切る。
- ④ ストローを割り箸に通し、そのまま下穴の部分にさし、割り箸だけを引き抜く。

教材6 1段階-4 おなじものは どれかな②



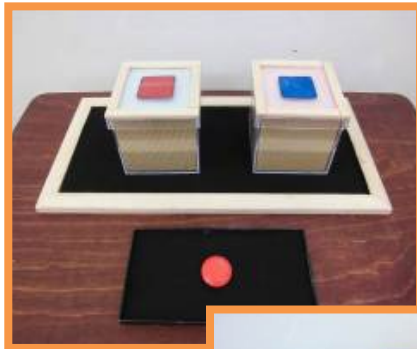
用意するもの

提示枠、缶のふた、スチレンボード（黄）、円い板（大・小）、不織布（黒）、両面テープ

作り方

- ① 黒い不織布を缶の大きさに切って、両面テープで貼り付ける。
- ② 缶のふたの大きさに合わせてスチレンボードを切る。
- ③ カッターで円い板が入る大きさの穴を開ける。
- ④ スチレンボードを黒い不織布の上に両面テープで貼る。

教材 7 1 段階－4 おなじものは どれかな③



用意するもの

提示枠、作業枠、不透明な箱 2 個、角材（幅 10 mm×厚さ 3 mm）、金属板（キッチン用ステンレス補助プレート）、マグネットシート、丸型磁石（赤、青）、両面テープ、油性マジック（赤、青）

作り方

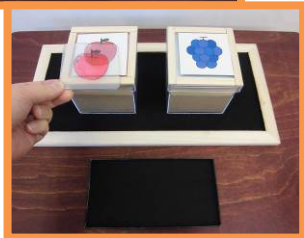
- ① 角材をふたの 1 辺の大きさに合わせて 8 本切り分ける。
- ② 不透明な箱のふたに、ボンドで角材を貼り付けて枠を作る。
- ③ 枠の中央に、金属板をそれぞれ貼る。
- ④ 白いマグネットシートを四角に切り、マジックで赤と青の色を塗って金属板に貼る。



ポイント

- ・この箱は、この後の教材 8 等でも使用できる。
- ・箱の中央に金属板を貼ることで、磁石が付くようにする。

教材 8 1 段階－4 おなじものは どれかな⑤



用意するもの

提示枠、作業枠、教材 7 の箱 2 個、絵カード（D L 可）、マグネットシート、透明な板、正解の印（子どもの好きなもの）、油性マジック

作り方

- ① 教材 7 で作成した箱はそのまま 2 つ使う。
- ② ふたの上にぴったり収まる大きさの見本の絵カードを作る。
- ③ 見本の絵カードの裏に、マグネットシートを貼る。
- ④ 見本の絵カードと同じ大きさに透明な板を切り、ピッタリ重なるように絵を描く。



ポイント

- ・教材 7 の箱は、角材の枠があることで絵カードが落ちずにピッタリと収まる心地よさがある。
- ・透明な板は、厚みがある方が持ちやすい。（硬筆用のソフト下敷き等）

教材 9 1段階－6 そろえてみよう



用意するもの

提示枠、作業枠（縦 25.5 cm×横 19 cm）、スチレンボード、絵・正解が確かめられる絵（DL可）、角材（幅 10 mm×厚さ 3 mm）、ビニールテープ（黄）、両面テープ

作り方

- ① 6 cm四方に切ったスチレンボードにダウンロードした絵を貼る。
- ② 裏面に正解を確かめられる絵を貼る。
- ③ 作業枠の中心をビニールテープで横に2等分する。
- ④ 作業枠を縦に3等分するように角材で仕切り、両面テープで貼る。



ポイント

- ・スチレンボードに絵カードを貼ることで、子どもが持ちやすくなる。
- ・作業枠も絵カードがピッタリと収まる大きさに仕切ること、カードを入れる場所が分かりやすく、子どもが入れる心地よさを感じることができる。

教材 10 1段階－7 おなじものを あつめよう①



用意するもの

提示枠、作業枠（縦 19 cm×横 40 cm）、角材（幅 10 mm×厚さ 3 mm）、フォーク、スプーン、ストロー（レジャー用品にある使い捨てのもの）、木工用ボンド

作り方

- ① 作業枠に木工用ボンドで角材を貼り、枠を縦に3等分する。



ポイント

- ・集めるものは、子どもの身近なものを選ぶ。

教材 11 1段階－8 あわせてみよう①



用意するもの

提示枠、作業枠（縦 11 cm×横 17 cm）、絵カード 2 枚（DL可）、スチレンボード、スプレーのり

作り方

- ① ダウンロードした絵 1 枚をスチレンボードに貼る。
- ② カッターで 2 つに切り分ける。
- ③ もう 1 枚の絵を作業枠に下絵として置く。



ポイント

- ・合わせるための絵は、子どもの興味・関心のあるもの（好きなキャラクター）等にするとよい。
- ・ピースがピタリとはまる作業枠を用意すると、子どもが取り組みやすい。

教材 12 1段階－9 なかまを あつめよう①



用意するもの

提示枠、作業枠、スチレンボード、絵カード（DL可）、ふたのついた缶の箱、マグネットシート、小さいバケツ、実物模型、マスキングテープ

作り方

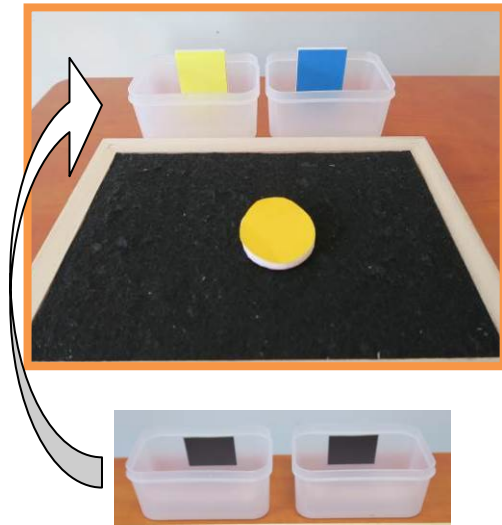
- ① スチレンボードにダウンロードした絵を貼り、裏側にマグネットシートを付ける。
- ② 缶のふたに絵カードを置く枠をマスキングテープで作る。
- ③ 缶の中に絵カードと対応した実物模型を入れる。



ポイント

- ・紙製の箱を使用する場合は、ふたにマグネットシートを貼る。

教材 13 2段階－1 なかまわけ①



用意するもの

提示枠、スチレンボード（のりつきタイプが便利）、色画用紙、透明な容器2個、厚紙、透明なブックカバー、マグネットシート

作り方

- ① スチレンボードに色画用紙を貼る。
- ② カッターで図形を適度な大きさに切り出す。
- ③ 透明な容器に、見本カードを貼るためのマグネットを付ける。
- ④ 見本カードは、厚紙を適度な大きさの四角に切り、色画用紙を貼る。透明なブックカバーで被い、裏面にマグネットを貼る。



ポイント

- ・見本カードは、確認カードにも使うため、対象となる子どもの指先の巧緻性に合わせてスチレンボードに貼るなど、厚さを工夫するとよい。

教材 14 2段階－1 なかまわけ③



用意するもの

提示枠、透明な容器2個、絵カード（DL可）、厚紙、ラミネートシート、ラミネーター

作り方

- ① ダウンロードした絵をうさぎの輪郭に沿って切り取り、ラミネート加工する。
- ② 見本カードの作り方については、教材 13 の③④を参照。



ポイント

- ・指先の巧緻性の高い子どもは、ラミネート加工したものでよい。ラミネート加工したカードをスチレンボードなどに貼ると、カードに厚みが出て、操作しやすくなる。

教材 15 2段階-2 くみあわせ①



用意するもの

提示枠、作業枠、スチレンボード、絵カード・正解を確かめられる絵（DL可）

作り方

- ① 作業枠は教材9を参照。
- ② ダウンロードした絵を6cm四方に切ったスチレンボードに貼る。
- ③ カードの裏面に答えを確かめられる絵を貼る。



ポイント

・カードの裏面に貼った絵を合わせると、一つの絵になるようにしておき、子どもが答えを確かめられるようにする。

教材 16 2段階-2 くみあわせ②



用意するもの

提示枠、製氷皿、立方体のブロック、くまの絵、シール（いちご等）、スチレンボード、ラミネートシート

作り方

- ① くまの絵をラミネート加工して、製氷皿に貼る。
- ② ブロック1個につき、いちごのシールを1枚貼る。
- ③ 製氷皿が収まる大きさにスチレンボードを切り抜き、製氷皿をはめる。その際、余ったブロックを置ける場所を右に残す。

教材 17 2段階－3 3までのかず（ばらブロック、棒ブロック）



ばらブロック



棒ブロック

用意するもの

算数ブロック、ビニールテープ（黄色、透明）
丸シール（青）

作り方

- ① ばらブロックは、算数ブロックの黄色い面に青い丸シールを一つずつ貼る。
- ② 棒ブロックは、黄色いビニールテープと透明のビニールテープを表裏にそれぞれ貼ってブロックを棒状にする。

教材 18 2段階－3 3までのかず①



用意するもの

提示枠、作業枠、1～3の棒ブロック、ブロックケース（5まで）3個、スチレンボード（黒）

作り方

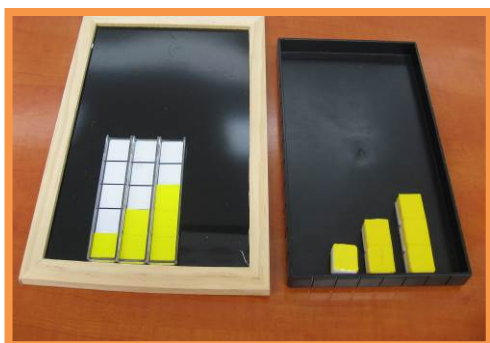
- ① 黒いスチレンボードを、ブロックケースの幅に合わせて切る。長さは4マス、3マス、2マス分の3種類用意し、ブロックケースに差し込む。



ポイント

・スチレンボードは、ブロックケースの幅にちょうど合わせると、接着剤を使用することなく、しっかり差し込める。必要がなくなったときには、すぐに取り外すことができる。

教材 19 2段階－3 3までのかず②



用意するもの

提示枠、作業枠、1～3の棒ブロック、ブロックケース（5まで）3個、折り紙（黄色）

作り方

- ① 教材 18 の、ブロックケースに付けた黒いスチレンボードを外す。
- ② 黄色い折り紙を、ブロックケースの幅に切る。長さを、1マス、2マス、3マス分の3種類用意し、ケースに貼り付ける。



ポイント

- ・台紙として貼る折り紙は、棒ブロックと同じ黄色にする。
- ・後で取り外すことも考え、ずれない程度に軽くセロハンテープ等で接着する。

教材 20 2段階－4 5までのかず②



用意するもの

提示枠2個、作業枠、ばらブロック15個、ブロックケース（5まで）5個、スチレンボード（黒、白）、数字カード2セット、マグネットシート、マスキングテープ

作り方

- ① ブロックケースに黒いスチレンボードを差し込んで作業枠に置く。
- ② 作業枠にマスキングテープを貼り、見本の数字カードを貼る枠を作る。
- ③ 作業枠に見本の数字カードを貼る。
- ④ スチレンボードで数字カードを作り、裏面にマグネットシートを貼る。

教材 21 2段階－6 かぞえてみよう②



用意するもの

提示枠、作業枠（ホワイトボード）、マグネットボード用ラインテープ（マスキングテープでも可）、スチレンボード（黄色）、ピン型マグネット10個（5個ずつ2色）、クリアファイル、ビニールテープ（白色）、数字カード（スチレンボード、数字を印刷した用紙、透明なブックカバー、マグネットシート



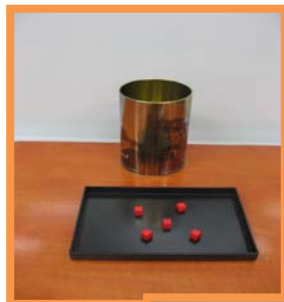
ポイント

- ・マグネットは、つまみやすいように、ピン型がよい。
- ・スライドするときにマグネットが抜けないう、クリアファイルでカバーをつける。

作り方

- ① 黄色いスチレンボードに、マグネットの直径に合わせて、スリットを開ける。スリットの下に白いビニールテープを貼り、1～10の数字をマグネットの大きさに合わせて書く。
- ② クリアファイルを黄色いスチレンボードの大きさに切り、スチレンボードのスリットより細かいスリットを開ける。スチレンボードに貼り付ける。
- ③ ②のスチレンボードをホワイトボードに貼る。
- ④ ホワイトボードに、ラインテープで数字カードを置くための枠を作る。

教材 22 2段階－6 かぞえてみよう③



用意するもの

提示枠、作業枠（ホワイトボード）、缶、スチレンボード（黒）、ピン型マグネット、立方体（小さいもので、落としたときに弾まず、音が1回鳴るもの）

作り方

- ① ホワイトボードに、印刷した1～5までの数字とマグネットを置く枠の用紙を貼り付ける。
- ② 黒いスチレンボードでマグネットを置く部分だけ切り抜いたものを作り、貼り付ける。



ポイント

- ・数字と対応する枠内に、マグネットを1個ずつ置くことができるよう、枠を立体的にする。

教材 23 2段階－7 すうじをよもう①



用意するもの

提示枠、数字パズル（型はめができるもの）、スチレンボード（黒）、スプレーのり

作り方

- ① 数字パズルの外側のでこぼこをカッターで切り取る。
- ② 黒いスチレンボードを数字パズルがのせられる大きさに切る。
- ③ スプレーのりで黒いスチレンボードにパズルの外枠を貼る。

教材 24 2段階－7 すうじをよもう②



用意するもの

提示枠、作業枠、数字カード（DL可）、スチレンボード、透明の板、油性マジック（青）、マグネットシート

作り方

- ① ダウンロードした算数ブロックの絵が付いた数字を、スチレンボードに貼り付け、数字カードを作る。
- ② 数字カードの裏にマグネットシートを貼り付ける。
- ③ 透明の板を数字カードと同じ大きさに切り、数字をマジックでかたどって青色を塗る。




ポイント

・数字カードに算数ブロックの絵を付けることで、量の手がかりを残しておく。

教材 25 2段階－7 すうじをよもう③



表



裏

用意するもの

数字カード（DL可）、ラミネートシート、ラミネーター

作り方

- ① ダウンロードした数字カードと算数ブロックの絵が付いた数字カードを、表と裏になるように貼り合わせる。
- ② ラミネート加工する。

教材 26 2段階－8 すうじをかこう②



用意するもの

スチレンボード（黒）、厚紙、ビニールテープ（白）

作り方

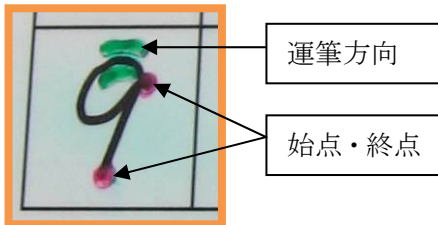
- ① 厚紙を数字の形に切る。数字は教科書 P42～45 をコピーするとよい。厚紙の厚さにもよるが、同じものを2枚重ねると、より立体的になる。
- ② 数字の上に白いビニールテープを貼る。
- ③ 7cm四方に切った黒いスチレンボードを10枚作る。
- ④ スチレンボードに数字を貼り付ける。



ポイント

- ・厚紙の上にビニールテープを貼ることで、ホワイトボード用マーカーで書いたり、消したりすることができ、繰り返し使用できる。
- ・数字の大きさや、線の太さは、子どもが楽になぞれる太さにする。（線が細くなると、なぞりが難しくなる。）
- ・カード状にすることで、個々の数字に注目しやすく、使いやすい。

教材 27 2段階－8 すうじをかこう③



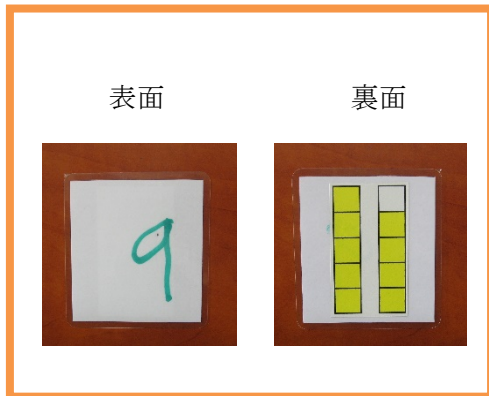
用意するもの

A4の用紙（半分）、ラミネートシート、ラミネーター、木工用ボンド、油性ペン

作り方

- ① 縦2列、横5列の枠を書く。
- ② 上の段には、全て、数字の見本を書く。
- ③ 下の段は、5段階の手がかりに分けて数字をなぞるための、見本を書く。（手がかりは子どもの実態に合わせて設定する。）
- ④ ③をラミネート加工する。
- ⑤ 数字の始点・終点や、書くときのガイドになる点や線などに、木工用ボンドを付けて、立体にする。
- ⑥ ボンドが乾いたら、立体の部分が目立つように油性ペンで着色する。

教材 28 2段階－8 すうじをかこう⑤



用意するもの

5 cm 四方に切った用紙（大きさは子どもの書きやすいサイズのもの）、算数ブロックの絵（1個～10個のもの）、ラミネートシート、ラミネーター

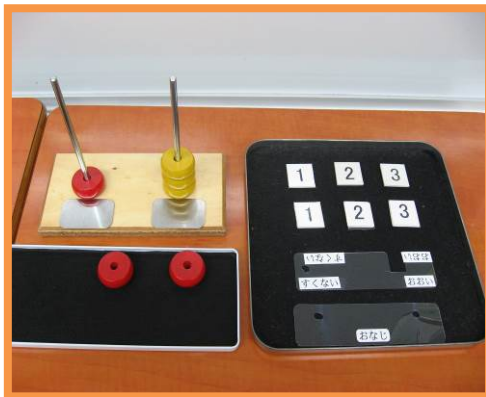
作り方

- ① 5 cm 四方の用紙に、子どもが数字を書く。
- ② 子どもが書いた数字の裏に、対応する算数ブロックの絵を貼り付ける。
- ③ ラミネート加工する。



・子どもが数字を書くときに、5 cm四方に切った用紙をたくさん用意しておくと、上手に書けなくても、次々に新しい用紙に書くことができる。たくさん書いたものの中から、数字カードとして使用したいものを子どもと一緒に選ぶようにすると、学習の振り返りができる。

教材 29 2段階－9 かずくらべ①



ポイント

・台に金属板を貼るときは、玉が上に重なって、高さに差が出ないように、位置を確認して貼る。

用意するもの

提示枠3個、玉さしの台、金属板、数字カード（1～3まで2枚ずつ）、透明な板2枚、玉2色各3個（だるま落としの部品でも可）、シール（白）、マグネットシート、油性マジック

作り方

- ① 玉さしの台に、棒の位置に合わせて金属板を貼り付ける。
- ② 透明な板を長方形に切る。（角は丸くする。）
- ③ 切った透明な板の1枚に、玉さし用の棒の幅に合わせて穴を2つ開け、「おなじ」と書いた白いテープを貼る。
- ④ もう一枚の透明な板には、片方は穴、もう片方はスライドして棒に通せるようスリットを開け、穴の方に「すくない」、スリットの方に「おおい」と書いた白いシールを貼る。
- ⑤ 数字カードの裏にマグネットシートを貼る。

教材 30 2段階－9 かずくらべ③（文の構成枠）



ポイント

・教材 34のように、数字カードや単語カードを貼る枠を、マスキングテープで作ると、さらによい。

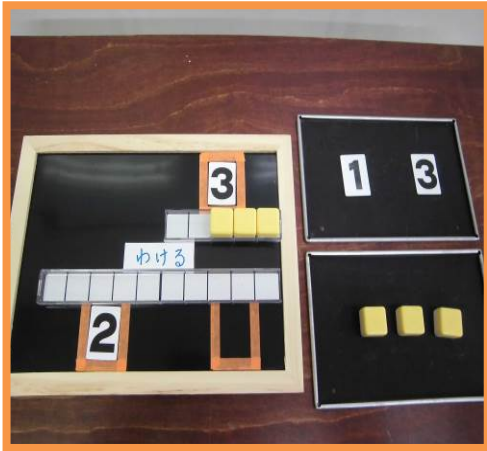
用意するもの

提示枠、作業枠、数字カード（1～10）、単語カード（「おおきい」「ちいさい」「おなじ」）、シール（白）、透明なブックカバー、マグネットシート

作り方

- ① 白いシールに「は」「より」と書き、作業枠に貼る。
- ② 数字カードや単語カードを作り、透明なブックカバーで覆い、裏にマグネットシートを貼る。

教材 31 2段階-10 わけましょう①



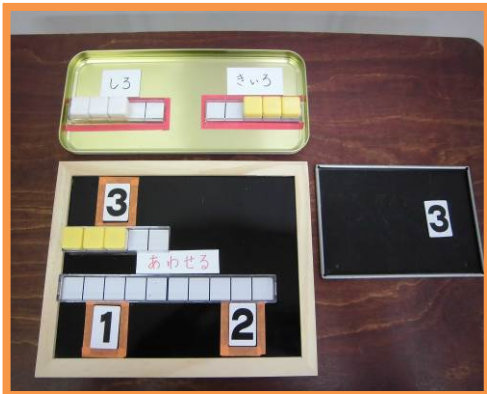
用意するもの

提示枠（小2個）、作業枠、算数ブロック（6個）、ブロックケース（5までのもの、10までのもの各1個）、マグネット付き数字カード、マグネットシート、マスキングテープ

作り方

- ① 作業枠にマスキングテープで数字カードを貼る枠を作る。
- ② ブロックケースを数字カードの上、下に置く。
- ③ マグネットシートに「わける」と書き、作業枠の中央に置く。

教材 32 2段階-11 あわせましょう①



用意するもの

提示枠（小2個）、作業枠、算数ブロック（9個）、ブロックケース（5までのもの3個、10までのもの1個）、マグネット付き数字カード、マグネットシート、マスキングテープ

作り方

- ① 作業枠にマスキングテープで数字カードを貼る枠を作る。
- ② ブロックケースを数字カードの上、下に貼る。
- ③ マグネットシートに「あわせる」と書き、作業枠の中央に置く。
- ④ 同様に、提示枠の缶のふたにもブロックケースを置く場所をマスキングテープで作成し、「しろ」「きいろ」と書いたマグネットシートを貼る。

教材 33 2段階-12 なんばんめ①



用意するもの

ミニホワイトボード、人物の写真、数字カード、スチレンボード、巾着袋、マスキングテープ、マグネットシート

作り方

- ① ホワイトボードにマスキングテープで、2段の表を作る。
- ② スチレンボードに人物と数字カードを貼り付ける。
- ③ カードの裏にマグネットシートを貼り付ける。



ポイント

・人物カードは、友だちや先生等、子どもが普段かかわりのある人にする。

教材 34 2段階-12 なんばんめ②



用意するもの

提示枠（缶のふた）、作業枠、スチレンボード（黄色）、汽車の絵（DL可）、数字カード、マグネットシート、マスキングテープ、シール（白）、ラミネートシート、ラミネーター、油性マジック（赤）

作り方

- ① ダウンロードした汽車の絵をラミネート加工し、マグネットシートを付けて、作業枠に貼る。
- ② 黄色いスチレンボードにカッターでスリットを入れて、動物の絵が見えるようにし、「まえ」「1～5」などのシールを貼る。
- ③ スチレンボードで四角い枠を作って赤い色を塗り、スリットの内側にはめる。
- ④ 作業枠にマスキングテープで、数字や単語のカードを置く枠を作る。
- ⑤ マグネットシートで数字や単語のカードを作る。



ポイント

・スリットの内側の四角い枠を子どもが動かすことで、どの動物が何番目なのか分かりやすい。

参 考 文 献

- ・文部科学省（2009）「特別支援学校 教育要領・学習指導要領」
- ・文部科学省（2009）「特別支援学校学習指導要領解説総則等編(幼稚部・小学部・中学部)」
- ・文部科学省（2009）「特別支援学校学習指導要領解説総則等編(高等部)」
- ・文部科学省（2011）「さんすう☆ さんすう☆☆ さんすう☆☆☆教科書解説」
- ・文部科学省（2012）「数学☆☆☆☆教科書解説」
- ・文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説 算数編」
- ・栃木県教育委員会（2010）「特別支援学校教育課程編成の手引[小学部・中学部]」
- ・進一鷹（2005）「障害児のためのステップアップ授業術6〈ことば・文字・数〉基礎学習の教材づくりと学習法」明治図書
- ・進一鷹（2010）「知的障がい・自閉症・学習障がいの子どもへの学習支援ー〈ことば・文字・数〉の学習と指導の実際ー」明治図書
- ・立松英子（2009）「発達支援と教材教具 子どもに学ぶ学習の系統性」ジアース教育新社
- ・中野尚彦・中村保和 他（2004）「研究紀要『学習の記録』第25号」前橋こどものへや、太田こどものへや
- ・水口浚（1995）「復刻版 障害児教育の基礎」障害児基礎教育研究会
- ・水口浚 他（2006）「一人ひとりの子どもに学ぶ教材教具の開発と工夫」学苑社

※本資料には、文部科学省著作教科書から引用したイラストがあります。これらのイラストについては、授業や研修等の目的以外に使用しないよう、御注意ください。

◇指導助言者 ※敬称略

- ・群馬大学教育学部障害児教育講座 准教授 中村 保和 (平成27～28年度)
- ・県教育委員会事務局特別支援教育室 指導主事 藤本 勝 (平成27年度)
- ・ " 指導主事 熊谷 ひとみ (平成28年度)

◇研究協力委員 ※敬称略

- ・県立富屋特別支援学校鹿沼分校 教諭 熊谷 ひとみ (平成27年度)
- ・ " 教諭 福田 有宏 (平成28年度)
- ・ " 教諭 川中子 靖代 (平成27～28年度)

※本資料は、当センターのHPよりダウンロードできます。

特別支援学校(知的障害)における教科指導の充実
～文部科学省著作教科書を活用した算数科～
[数と計算(数量の基礎)小学部1～2段階]

発行 平成29年3月
栃木県総合教育センター 教育相談部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7210
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

